

—保護者や地域住民など学校関係者との連携・協働の推進に関する実践研究—

ニセコ町学校評価ガイドライン

～地域とともにある学校づくり～

平成25年3月



目次

I. 学校評価について	1
○ なぜ、学校評価なのか	
○ 学校評価の目的	
II. ニセコ町学校評価システムについて	2
○ 学校評価の3つの手法	
○ PDCAサイクルを意識した学校評価のしくみ	
○ 学校評価システムの充実に向けて	3
○ 学校評価システムの流れ	4
III. ニセコ町学校種間連携による学校評価	5
IV. 学校評価の進め方と留意点	
(1) 重点目標、具体的な取組等の設定と公表	7
(2) 年間評価計画の設定	9
(3) 重点目標、具体的な取組、評価の観点	11
V. 自己評価	
(1) 自己評価の実施	13
(2) 外部アンケートの実施	15
VI. 学校関係者評価	17
VII. 第三者評価	
○ 第三者評価とは	19
○ 第三者評価の評価すべき事項	
○ 第三者評価の進め方	20
VIII. 評価結果の公表	21
IX. 学校情報の積極的発信・受信	23
○ 情報発信の方法	
○ 情報提供の内容	
○ 情報提供に当たっての留意点	
X. 参考資料	26
(1) 学校評価(例)	27
(2) 学校教育計画に基づく全体構造図(例)	31
(3) ニセコプラン(例)	33
(4) 「教育プラン(学校改善プラン)」推進(例)	35
(5) 「教育プラン(学校改善プラン)」参考(例)	36
(6) マークシート処理システムの導入(例)	37
(7) 「ニセコ町生活・学習アンケート」参考(例)	38
参考文献	39

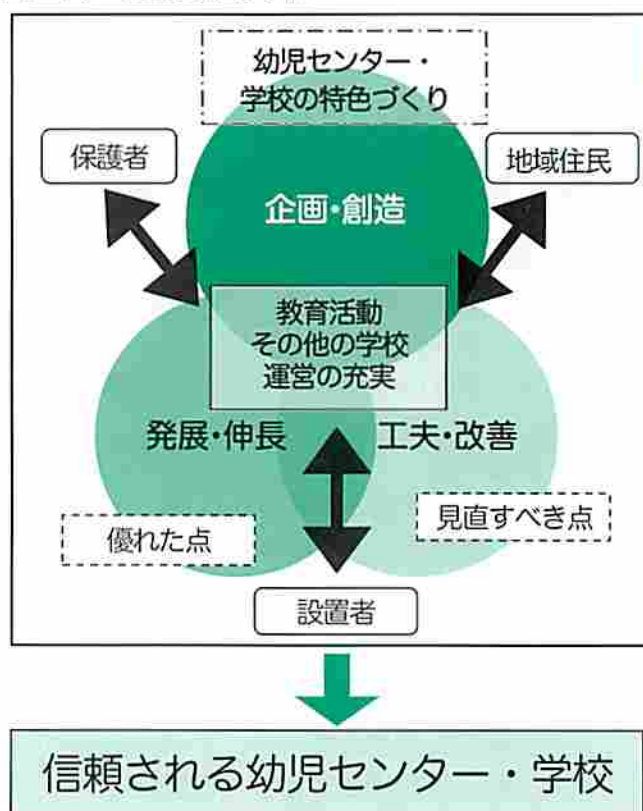
1. 「学校評価」について

なぜ、学校評価なのか

学校評価とは、幼児センターや各学校(以下、「各学校等」という。)が、地域や幼児・児童生徒の実態に基づいて設定した目標をもとに実践を進め、その達成度や取組の状況を明らかにして、その結果を学校等の改善に活かしていく仕組みです。

学校評価の実施と結果の公表を通して、次のことが期待されます。

- 特色ある教育活動を展開し、また点検を行い、各学校等の特色、優れた点、見直すべき点をより明確に意識することができる。
- 共通の目標に向かって取り組み、成果や課題を共有することができる。
- 現状に変化が生まれ、組織の活性化が図ることができる。
- 学校等に関わる人々との双方向の情報のやりとりや連携協力が図られ、信頼される学校づくりを進めることができる。



学校評価の目的

学校改善

各学校等が自らの教育活動その他の運営についての目標を設置し、その達成状況や取組の適切さ等について評価することによって、組織的・継続的な改善を図ること

<PDCAサイクルによる改善>

説明責任

各学校等が自己評価及び学校関係者評価の実施とその結果の説明・公表により、保護者や地域住民に対する説明責任を果たすこと

<信頼される開かれた学校>

コミュニケーション

学校評価を通して保護者、地域住民とのコミュニケーションをより一層図ることで、運営に対する理解と参画を得ること

<保護者、地域住民の協力・参画>

教育の質の向上

教育委員会等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講じることにより、教育の質を保証し、その向上を図ること

<学校への支援>

II. ニセコ町学校評価システムについて

学校評価の3つの手法

ニセコ町における学校評価は、次の3つの手法を進めます。

自己評価

教職員による
評価

外部アンケート

自己評価は、学校評価の基本となるものであり、校（園）長のリーダーシップの下で、学校の全教職員が参加し、設定した目標や具体的計画等に照らして、その達成状況に向けた取組の適切さ等について評価を行います。

学校の全教職員が、設定した目標や具体的な取組等について、その達成状況や取組の適切さ等について評価を行います。

教職員とは異なる立場からの意見を取り入れるために、児童生徒、保護者、地域住民等を対象にしたアンケートを実施します。アンケート等については、学校の自己評価を行う上で、目標の設定・適切さや取組の達成状況等について評価するために行います。

学校関係者評価

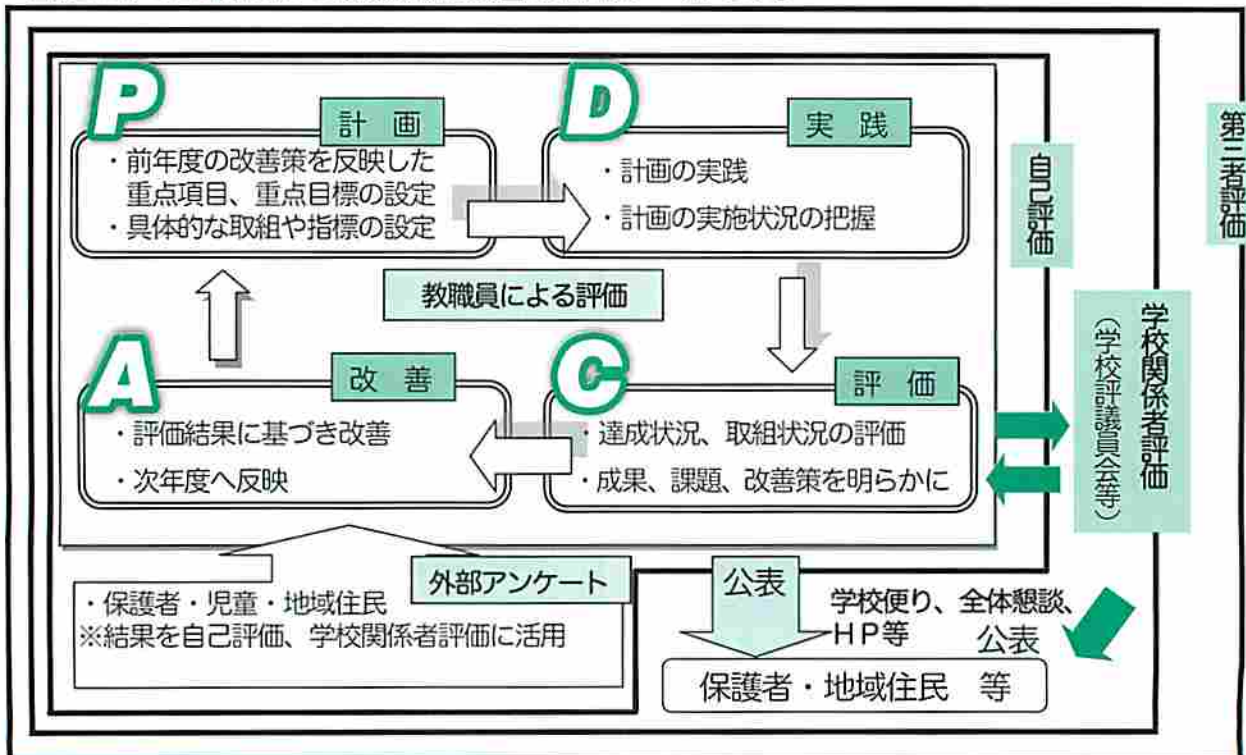
学校評議員、保護者代表（PTA 役員等）の学校関係者により構成された評価組織が、自己評価の結果や外部アンケート結果等を評価します。

第三者評価

学校と直接関係を有しない教育の専門家等による客観的な評価を重視し、教育活動その他の学校運営について、専門的な視点から評価を行います。

PDCAサイクルを意識した学校評価のしくみ

学校評価システムは、教職員による計画（P）・実践（D）・評価（C）・改善（A）の基本的なサイクルを意識した自己評価活動を中心に、学校等が教育活動その他の学校等の運営について主体的かつ継続的に改善を図るツールです。



学校評価システムの充実に向けて

「二セコ町学校評価システム」の充実に向けて、以下の点に留意していきます。

全教職員の協働体制で取り組む

校(園)長のリーダーシップの下、全教職員が参加して、組織的・継続的な学校評価に取り組みます。

重点目標や具体的な取組が共通理解されていることで、日常的なやり取りにおける改善も可能になります。

自己評価が基本

学校評価の最終的な目標は、幼児・児童生徒のより良い各学校等の生活を実現することにあります。

あくまで自己評価を基本として位置づけ、その結果をふまえて改善を図っていくシステムの定着を目指します。

外部アンケートを大切に

学校運営の改善のためには、教職員とは異なる立場からの見方や意見を取り入れることも必要です。

学校に新しい気づきや手応えをもたらすとともに、共通理解を深め、学校運営への意識付けとなるような外部アンケートの実施を目指します。

学校関係者評価の充実を

学校運営の質に対する保護者等の関心が高まる中、学校関係者評価を通じて、学校の現状と取組への理解を深め、参画を得ていくことが大切です。評価組織としての学校評議員制度の充実を図り、継続的な実施が可能な学校関係者評価の在り方を求めていきます。

学校情報の発信・受信を進める

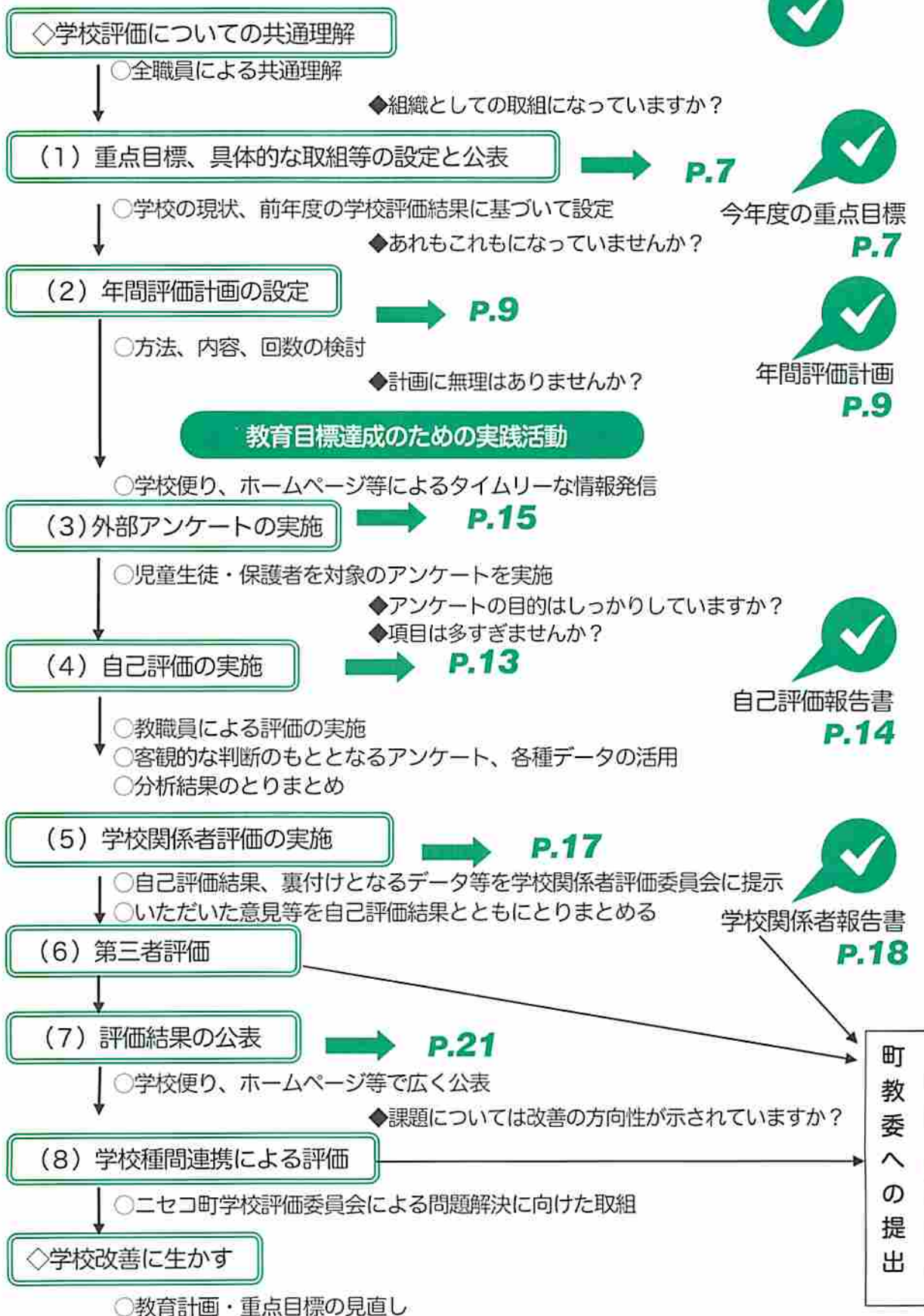
学校評価の前提として、学校情報の積極的な発信・受信が必要になります。教育計画や重点目標の公表、主な教育活動その他の学校運営の状況の報告など、保護者等外部の方々の学校理解を深めるための積極的で分かりやすい情報発信を進めていきます。

継続可能で効果的な 学校評価システムに

評価活動を進めるためには、様々な作業や協議が必要になってきます。それらの作業に労力を取られすぎ、評価のための評価に陥ることのないよう、将来的にも継続可能な「学校評価システム」を目指します。

学校評価システムの流れ

※計画的に作成していくとスムーズに流れます

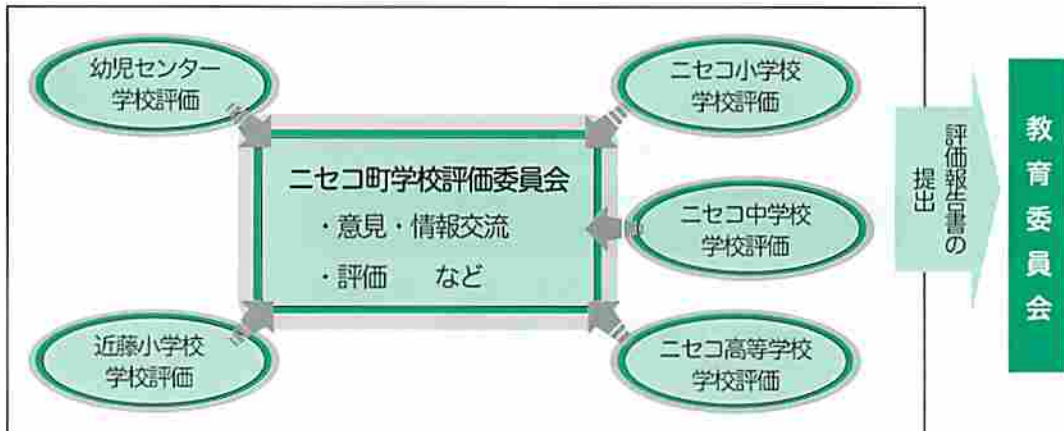


III 学校種間連携による学校評価

幼児センター・各学校種間連携

現在、子どもたちを取り巻く環境において、学校種間のギャップが課題になっています。安定した学校生活の中で子どもたちに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」など「生きる力」を確実に身に付けさせるためには、学校種間を円滑につなぐことがきわめて重要です。

町では「二セコ町学校評価委員会」を組織し、問題の解決に向けた取組を行います。



学校評価体制の構築

各学校等の評価活動を円滑かつ組織的に行うとともに、各学校等・家庭・地域社会が一体となった地域ぐるみの教育活動を推進するため、校（園）長、教頭、保護者や地域住民等の委員によって構成される「二セコ町学校評価委員会」を組織します。

本組織は、学校評価を踏まえた教育活動についての連携を進め、学校種間連携に必要な教育活動の検討や諸課題の解決に向けての協議を行い、子どもたちが希望に満ちた学校生活を送れるよう支援していくために行います。

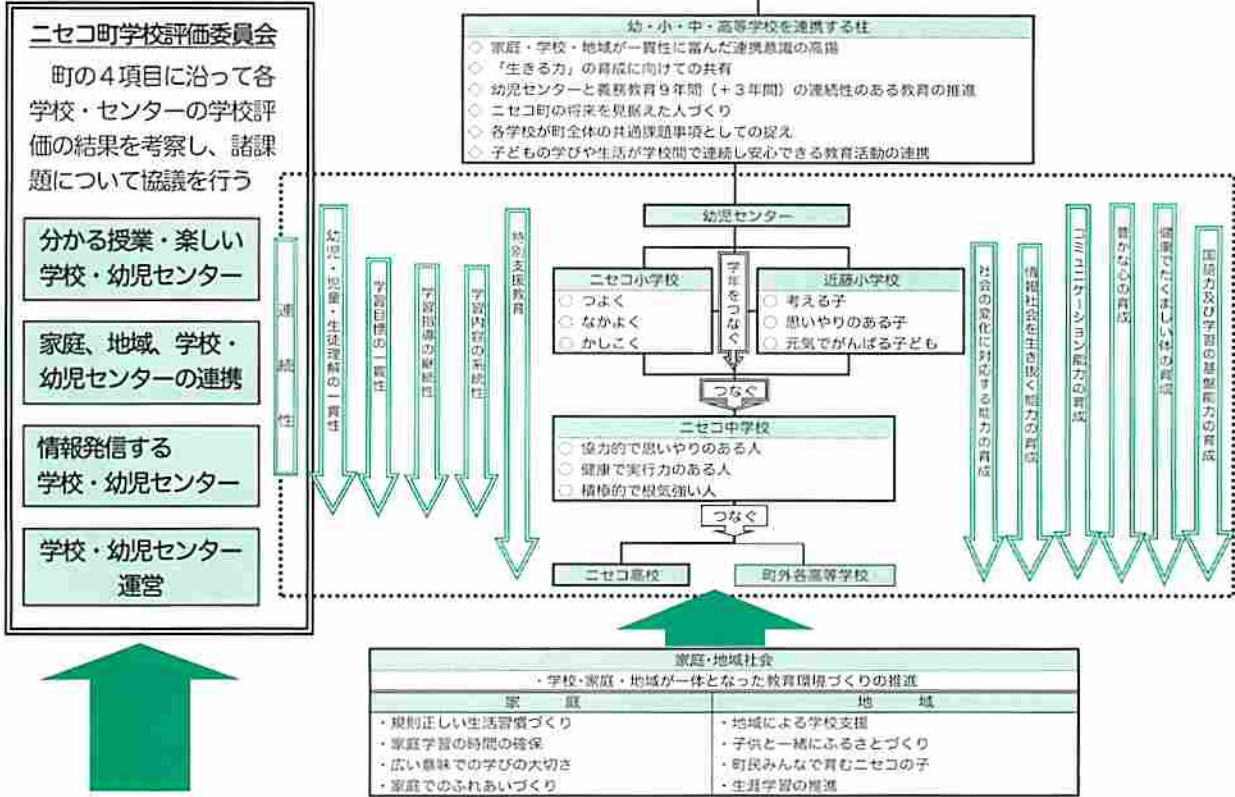
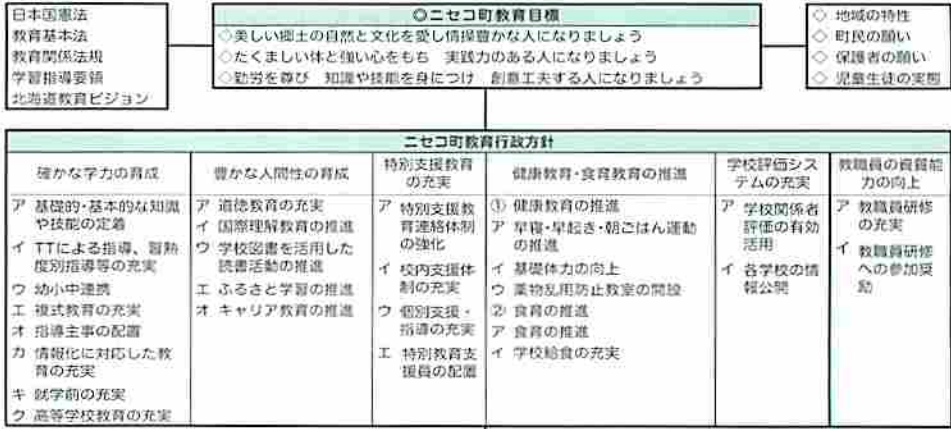
「二セコ町学校評価委員会」が検討する事項として、

- ① 学校経営計画原案における前年度学校評価結果及び改善策の反映状況
- ② 学校評価年間スケジュール
- ③ 評価項目や、評価指標
- ④ 幼児・児童生徒・保護者・地域住民等へのアンケート内容と結果の集約
- ⑤ 評価結果の集約・分析・改善点
- ⑥ 自己評価書の様式及び自己評価書の原案
- ⑦ 学校評価報告書の様式 等

幼児センター・各学校種間連携（例）

各学校等の単独の目標や問題としてではなく、町内の各学校等・教育委員会が連携し、共通の目標及び問題として捉え、子どもや保護者が学びや生活が連続していると安心できるように、相互に教育活動を理解し、協力していくことが大切です。

ニセコ町幼小中高 校連携全体構造図



学校種間連携による学校評価

- ・各学校等の教職員が教育の専門家として主観的視点から評価。
- ・幼児センターから高等学校までの子どもたちの成長を見据えた教育活動や学校評価の考え方の共通化。
- ・「ニセコ町学校評価委員会」による学校評価の連携の推進。
- ・学校評価の他に、学校種間連携に必要な教育活動の検討や諸課題の解決に向けての協議。
- ・各学校等は学校種間連携に係る学校評価の結果を自己評価、学校関係者評価とともに学校評価報告書に追記し、公表を前提に記載。
- ・保護者、地域住民等に学校便りやホームページでの公表。

Ⅳ. 学校評価の進め方と留意点

(1) 重点目標、具体的な取組等の設定と公表

学校評価システムを有効に活用するためには、まず、年度当初の学校教育目標や教育計画が具体的で明確なものであるかどうか、見直し・検討を行う必要があります。目標や計画が抽象的・網羅的では、実践活動やPDCAサイクルに基づく評価活動も有効に機能しません。また、教育計画については取組を具体化しておく、さらに分かりやすくなります。

そして、教育計画をもとにその年度の重点目標を設定し、教職員全員で共通理解するとともに、保護者や地域住民に公表していきます。

学校教育計画に基づく項目・重点目標・具体的な取組・指標等を設定する

① 項目の重点化を図る

- ◇ 「分かる授業・楽しい学校・幼児センター」「家庭・地域・学校・幼児センターの連携」「学校・幼児センター運営」「情報発信する学校・幼児センター」を意識して、項目を設定します。

② 重点目標を設定する（単年度の目標）

- ◇ 網羅的にならないように、前年度の学校評価、幼児・児童生徒の実態、地域性や特色をもとに、目標を絞り込みます。

③ 具体的な取組と指標を設定する

- ◇ 重点目標の達成を目指す必要な取組を具体的かつ明確に設定します。
- ◇ 目標や取組の達成状況を把握するための指標を設定します。

項目	重点目標	具体的な取組	評価の視点
分かる授業・楽し…	○分かる授業を目指した授業 改善の推進	・全員が1回以上の授業公開… ・学習規律… ・児童生徒…	・校内研修の充実… ・学力調査の結果…
	○個に応じた指導の充実…	・朝自習の… ・少人数の…	
家庭・地	○連携協力の推進	・保護者アンケートの実施 ・きめ細やかな対応・相談しやすい体制の確立	・アンケート満足… ・要望、意見の把… ・PTA、学年との…

※様式については各学校等の創意工夫が活かされます。
※項目についても学校独自の工夫を加えた設定を行うことができます。

Point1

成果指標と取組指標



- ① 具体的な目標と評価の観点には目標の達成状況を把握するための成果指標と、達成へ向けた取組の状況を把握するための取組指標を適切に組み合わせて設定します。項目によっては、客観的な数値目標を取り入れると分かりやすくなります。
 - ◇ 成果指標 学力調査の結果や、運動・体力に関する調査の結果等
例：校内研修を年3回実施する。
 - ◇ 取組指標 授業研究の実施状況や外部人材の活用状況、補充学習の状況、読書活動の状況、情報発信の状況等
例：児童生徒アンケート項目「自分からあいさつをする」生徒を80%以上にする。
- ② 数値化することで目標が明確になります

Point2

重点目標や具体的な取組についての情報発信を行う



- ① 広く情報を発信する
 - ◇ 設定した重点目標や具体的な取組・評価の観点は、早い時期に広く保護者、学校評議員、地域住民等にお知らせします。
(学校だより、ホームページ、PTA総会、保護者会等の活用)
- ② 学校関係者評価との関係性を高める
 - ◇ 公表を通して、達成状況に対する保護者、地域住民の意見を幅広く聞くとともに、よりの確な学校関係者評価につながるようにします。

Point3

中期目標に基づく単年度目標の設定



学校全体の教育目標とともに、目指すべき成果やそれに向けた具体的な取組に関する中期(3~5年)目標を設定しておく、安定的な学校運営が図られるとともに、単年度目標(重点目標)の取組をより明確にすることができます。

(2) 年間評価計画の設定

年度当初に無理のない評価スケジュールを立て、役割を分担することで、見通しと余裕をもって学校評価を進めることができます。

年間評価計画 (例)

月	課 程	学校 (自己評価)	外部アンケート	学校関係者評価	第三者評価
4	 	教職員の共通理解 ◇重点目標・取組指標等の設定 ◇学校評価年間計画の作成		<input type="checkbox"/> 学校評議員の選任 <input type="checkbox"/> 保護者・地域への公表 ・学校だより ・HP ・PTA総会 等	▶評価委員の委嘱
5		自己評価 ◇自己評価中間まとめ ◇中間評価の結果に基づく改善	◆児童生徒アンケート ・生活実態 ・学校生活 ◆保護者アンケート ・授業公開 ・教育活動 ・行事	<input checked="" type="checkbox"/> 学校関係者評価委員会(学校評議員会) ・重点目標や具体的な取組についての説明 ・教育活動の参観	▶評価委員の訪問
6					
7		自己評価 ◇自己評価とりまとめ ◇自己評価書作成 ◇改善策の見直し ◇町教委への報告・学校関係者評価とともに報告 ◇評価結果の分析と課題の把握及び改善 ◇各教育活動の計画立案 ◆ニセコ町学校評価委員会	<input type="checkbox"/> 来校の御案内 <input type="checkbox"/> 学校情報の発信・受信	<input checked="" type="checkbox"/> 学校関係者評価 <input type="checkbox"/> 本町においては学校関係者評価委員は学校評議員を兼ねる。 <input checked="" type="checkbox"/> 保護者・地域への公表 ・学校だより ・HP ・懇談会、説明会等 <input type="checkbox"/> 町教委への報告	▶評価委員の報告
8					
9					
10	次年度へ向けて	<input type="checkbox"/> 学校だより、ホームページによる情報発信と受信 <input type="checkbox"/> すぐに改善が必要なことへの対応と説明			
11					
12					
1					
2					
3					
年間					

学校評価システム(例)

学校評価システムについては、各学校等の教育計画の中に意図的・計画的な位置付けを行っています。

ニセコ町立〇〇小学校																		
平成〇年度	学校教育目標	○「つよく」 強い心と身体をもって 自立する子			○「なかよく」 思いやりの気持ちをもってかかわる子			○「かしこく」 進んで考え判断する子			学校評価							
重点目標		他を認め、何事にも積極的にかかわる子																
○「わかる、できる、たのしい」が実感できる授業。		○共生力をはぐくむ人間関係。			○自学をはぐくむ確かな学びの定着。			○PDCA日常的検証と機動的改善。			○故郷に誇りと愛着をもつ子の育成。		○家庭地域との双方向の連携。					
期	前期						後期											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
主な行事	年度始業式・入学式 学力学習調査 各種検査・測定 一年生を送る会	春の遠足	運動会 各種検定 会診	3・4年見学旅行	5年宿泊学習	夏季休業	夏休み作品展	交通安全指導 芸術鑑賞会	前期通知表配布	秋の遠足	芸術鑑賞会 交通安全指導	写生会 遊戯会 学芸会	地域参観日 公開授業 公開授業研	集団下校訓練	冬季休業	冬休み作品展 スキー学習 スキー大会	卒業式 後期通知表配布 6年生を送る会	年度末休業
校長	学校経営方針						自己評価			自己評価			学校経営方針					
教職員による評価	<p>PLAN: 学校経営方針の具現化のための計画策定</p> <p>DO: 計画に基づいた具現化のための実践</p> <p>CHECK: 中間評価 → 評価結果の分析</p> <p>ACTION: 改善策の共通理解 → 改善策の検討</p> <p>Next DO: 年度末評価</p> <p>Next CHECK: 年度末評価</p> <p>Next ACTION: 改善策の共通理解 → 改善策の検討</p> <p>PLAN: 次年度計画策定</p> <p>学校経営方針具体化のための具体的計画策定 → 教育課程の編成</p>																	
	<p>学校経営方針の具現化のための計画策定</p> <p>各部の重点</p> <p>学年・学級経営案策定</p> <p>学校経営計画の検討・作成</p> <p>交流</p> <p>検討</p> <p>通知表検討作成</p> <p>学校経営反省</p> <p>学校経営方針</p> <p>重点目標</p> <p>重点目標具現化</p> <p>学校経営反省</p> <p>年度途中変更可能な事項</p> <p>Next PLAN</p> <p>学校経営反省</p> <p>改善策の共通理解</p> <p>改善策の検討</p> <p>改善策の検討</p> <p>改善策の検討</p>																	
目指す子ども像と教師の関わり	<p>1年間の目標</p> <p>いじめアンケート</p> <p>出会いを大切にしよう</p> <p>○1年間の見通しを持ち、目当てを持ってがばる</p> <p>○集団行動の規律やマナーを身に付ける</p> <p>○学びと生活の基礎作り</p> <p>○挨拶の徹底</p> <p>○個を認め合う学級集団作り</p> <p>行事アンケート</p>																	
	<p>教育相談</p> <p>生活学習アンケート</p> <p>児童アンケート</p> <p>1節の反省 2節の目標 2節の反省</p> <p>仲間と力を合わせよう</p> <p>○自ら課題を見つけ、粘り強くやり抜く</p> <p>○助け合い、励まし合って活動する</p> <p>○学習習慣の確立</p> <p>○基礎基本を大切に個に応じた指導</p> <p>○集団の中で助け合い、励まし合う活動</p> <p>3節の目標</p> <p>いじめアンケート</p> <p>児童アンケート</p> <p>認め合い、高めよう</p> <p>○失敗や間違えを恐れず、他とかわり表現する</p> <p>○見通しや目当てを持ち、自ら活動し、自他のを認める</p> <p>○表現活動の充実を通し自信を深める活動</p> <p>○集団活動を通し認め高め合う集団の育成</p> <p>3節の反省</p> <p>保護者アンケート</p> <p>行事アンケート</p> <p>保護者アンケート</p> <p>4節の目標</p> <p>振り返り、新たな目標を持とう</p> <p>○1年間を振り返り自他の成長を確認する</p> <p>○進級・進学に向けての心構えをもつ</p> <p>○感謝の気持ちを持ち、表現する</p> <p>○成長や課題を気持ちを持たせる活動の充実</p> <p>学年末説明会・懇話会</p> <p>1年間の振り返り</p>																	
関係者	<p>保護者</p> <p>PTA総会 家庭訪問</p> <p>夢観日 保護者面談</p> <p>参観日</p> <p>地域参観日 保護者面談</p> <p>参観日</p> <p>学年末説明会・懇話会</p> <p>1年間の振り返り</p> <p>評価の妥当性について意見をいただく</p>																	
	<p>学校経営方針</p> <p>学校評価計画</p> <p>学校評価計画</p> <p>評議員会</p> <p>学校評価計画</p> <p>評議員会</p>																	

※評議員会は、学校関係者評価委員会を兼ねる。

(3) 重点目標・具体的な取組・評価の観点

町では、町教育振興基本計画、町教育行政執行方針を推進するために、4項目「分かる授業、楽しい学校・幼児センター」・「家庭、地域、学校・幼児センターの連携」・「情報発信する学校・幼児センター」・「学校・幼児センター運営」を設定するとともに各学校等が具体的な目標や評価の観点を設定する際の参考例を示しています。各学校等においては、それぞれの課題解決に向け、「評価の観点」の中から重点とする観点を選択し数値による評価指数を設定します。

項目	重点目標	具体的な取組	評価の観点
分かる授業、楽しい学校・幼児センター	「分かる授業」を目指した授業改善の推進 (幼小中高)	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が年1回以上の授業公開の実施 ・児童生徒アンケートの実施 ・学習規律の徹底 ・全員が月1回以上のICTを活用した授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学力調査の結果、及び改善に向けた取組状況 ・授業改善のための校内研修の実施状況 ・外部講師の招聘状況 ・児童生徒アンケートの結果 ・効果的な指導方法や指導形態の工夫状況
	個に応じた指導の充実 (小中高)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の積極的活用 ・効果的なTT指導、少人数指導の工夫 ・家庭学習の習慣付け ・補充学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じたドリル学習 ・個に応じたきめ細やかな指導の実施状況 ・家庭学習の取組状況 ・補充学習の実施状況
	言語活動の充実 (小中高)	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科等で「考え、話し合う」活動を取り入れた授業展開の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動に関する研修の実施状況
	表現活動の充実 (幼)	<ul style="list-style-type: none"> ・表現することの楽しさを味わう ・コミュニケーションの基礎を培う 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容充実につながる研修の実施 ・リズム運動の推進
	学力向上を目指した幼小中連携の推進 (幼小中高)	<ul style="list-style-type: none"> ・町教育研究会での研修、授業参観 ・全学年を通してのALTとの英語活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上の連携の取組状況
	特別支援教育の充実 (幼小中高)	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学及び、特別な支援を必要とする幼児、児童生徒への支援体制の整備、校内研修の充実 ・全職員による幼児・児童生徒理解、情報共有 ・交流授業及び作業 	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮を要する幼児、児童生徒に対する支援のための研修の実施状況 ・個別の指導計画の実施状況 ・個別の教育支援計画の点検・改善 ・特別支援学級への校内支援体制の状況 ・関係機関との連携状況
	読書活動の推進 (幼小中高)	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝読書」の実施 ・「あそぶっく」との連携 ・図書館の計画的な利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の取組状況 ・学校図書館の計画的利用及び読書活動の状況
	豊かな心につながる想像力の育成 (幼)	<ul style="list-style-type: none"> ・本との触れ合いの促進 ・英語教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あそぶっく」との連携協力状況 ・英語であそぼうの実施
	規範意識の高揚 (幼小中高)	<ul style="list-style-type: none"> ・心を育てる道徳教育の推進に向け、全員が年1回以上の「道徳の時間」の授業公開の実施 ・あいさつ運動の推進 ・地域でのボランティア活動、社会体験・自然体験の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実を図る取組の状況 ・道徳教育推進教師の取組状況 ・あいさつ運動推進状況 ・ボランティア活動、社会体験・自然体験の取組状況
	キャリア教育の充実 (小中高)	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた教材の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた教材の開発 ・地域団体との連携・協力
	いじめ・不登校児童生徒への対応と強化 (小中高)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施、日常的な情報交換 ・教育相談週間における個別面談 ・いじめに関する児童生徒、保護者アンケートの実施、課題把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修実施状況 ・校内生活委員会による状況確認 ・サポート体制の確認 ・児童生徒、保護者アンケート結果
	問題行動への組織的対応 (小中高)	<ul style="list-style-type: none"> ・「報告・連絡・相談、確認」の徹底 ・関係機関、町生徒指導連絡会との連携促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導体制の整備状況 ・生徒指導に係る研修の実施 ・町生徒指導連絡会との連携状況

項目	重点目標	具体的な取組	評価の観点
分かる授業、楽しい学校・幼児センター	防災教育・安全教育の推進、安全管理の徹底 (幼小中高)	・防災教育への積極的取組推進 ・危機管理マニュアルの改善 ・安全マップの作成	・防災教育、避難訓練等の参加・実施状況 ・危機管理マニュアル、安全マップ等の作成、加除修正状況
	健康・体力づくり (小中高)	・発達段階に応じて高める体力の内容を明確にし、実態に即した体力の向上 ・健康観を重視した健康教育の推進	・体育的行事の実施状況 ・各種テストを活用した体力向上のための実施状況 ・性教育の指導状況 ・薬物乱用防止等の指導状況
	健康・体力づくり (幼)	・体を動かし遊ぶことの推進 ・体づくりの環境整備 ・食育の推進	・歩く活動の実施 ・保護者への啓発 ・PTAボランティアとの連携
	基本的な生活習慣の定着・向上 (小中高)	・「生活・学習アンケート」の実施 ・テレビ視聴時間の縮減、「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底 ・家庭への啓発活動の推進と協力	・生活学習アンケートの結果 ・栄養教諭による「食育の時間」の実施状況 ・基本的な生活習慣の把握・定着 ・家庭への情報発信状況
	基本的な生活習慣の芽生えを生む (幼)	・基本的な生活習慣の形成 ・道徳性・規範意識の構築	・保健指導 ・実践記録からの研究推進
学校・幼児センターの連携	家庭との連携協力の推進 (幼小中高)	・保護者アンケートの実施 ・きめ細やかな対応、相談しやすい体制の確立	・保護者アンケートの満足度・要望・意見の把握 ・PTA、学年・学級PTAとの連携・協力
	地域との連携 (幼小中高)	・地域への情報発信、要望・意見把握 ・地域行事への参加	・町民講座での啓発 ・地域団体との連携・協力
	授業公開の推進 (幼小中高)	・地域参観日による学校理解の促進	・参加者数の把握 ・参観アンケートによる感想や満足度の把握
	外部人材の積極的活用 (幼小中高)	・外部指導者・実践者の招聘 ・「あそぶっく」との連携協力	・外部人材の活用状況
情報発信する学校・幼児センター	学校情報の積極的な発信の充実 (幼小中高)	・ホームページでの情報発信の充実 ・保護者が関心のある内容の工夫 ・学校評議員会についての発信	・学校便り等の内容、発行状況 ・ホームページ、ブログの更新状況
	学校評価の充実による学校改善の推進 (幼小中高)	・目標、取組、指標の明確化 ・全教職員の共通理解を図る ・自己評価・外部アンケートの実施と結果の公表 ・学校評価を改善に活かす	・目標や取組の設定や公表の状況 ・年間評価計画の策定状況 ・自己評価・外部アンケートの実施と評価結果の公表の状況 ・評価結果の活用状況
学校・幼児センター運営	安全管理・危機管理の徹底 (幼小中高)	・施設・設備の安全点検の実施 ・見回り活動、危機回避訓練の実施 ・危機管理、情報連絡体制の確立	・施設・設備の安全点検の実施 ・月1回校区見回り、年2回の避難訓練、交通安全教室の実施 ・情報管理体制の確立と徹底
	組織運営の充実・適正化 (幼小中高)	・教育目標、重点的な取組等の共通理解 ・校務分掌組織の適切な構成 ・適切な経理、各種文書、個人情報等の管理	・教育目標、重点的な取組等の共通理解の状況 ・校務分掌組織の適切な構成、運営状況 ・各種文書、個人情報等の管理状況 ・経理(管理・会計報告・監査)状況
	サービス管理の徹底 (幼小中高)	・厳粛で規律あるサービスの実践	・サービスの定例学習会、管理体制の確立と徹底
	事務の改善、各種会議の効率化 (幼小中高)	・会議等の改善・効率化、役割分担の推進 ・事務処理の効率化	・会議、打合せ、事務処理等の効率化に向けた取組の状況
	子育て支援 地域の子育て支援センターの推進 (幼)	・子育て支援(子育て講座・子育てサークル)の充実 ・預かり保育の充実	・支援の実施状況 ・実施状況(回数・内容)

V. 自己評価

(1) 自己評価の実施

自己評価の充実を図ることは、PDCAサイクルに基づく学校評価を通じた学校運営の改善を図る上で、最も大切なことです。自己評価を実効性ある取組とするため、学校運営の全分野を設定するのではなく、課題の重点化を図り、具体的かつ明確な目標や取組等を設定します。

年度当初に設定した重点目標や取組を中心に自己評価を進める

- ◇ 精選された具体的かつ明確な重点目標を設定する。
- ◇ 重点目標の達成のために必要な具体的な取組と評価の観点自己評価の評価項目として設定し、評価項目の達成・取組状況を把握するための数値目標を設定する。
- ◇ 教職員による評価、外部アンケート、各種教育活動のデータ等を資料とする。

<教育活動のデータ (例)>

教育課程実施状況、基礎学力定着度調査、生活実態調査、体力調査、校内研修実施状況、読書活動状況、外部人材活用状況、情報発信状況、進路指導状況、地域との連携の状況 等

取組状況・成果・課題についての検討を行う

- ◇ 検討事項
具体的な取組等の達成状況、成果と課題
- ◇ 取組に対する学校全体としての評価を示す
4段階の例 85% ~ 100% : 十分達成できた。(A)
70% ~ 85%未満: おおむね達成できた。(B)
50% ~ 70%未満: どちらかと言えば課題がある。(C)
0% ~ 50%未満: 課題がある。(D)



教職員による評価と外部アンケートに共通の項目を設けると見方の違いを明らかにすることができます。

改善策についての検討を行う

- ◇ 課題のある項目については、どのように改善を進めるか、また継続の必要な取組についても具体的な方策について検討を行う。

自己評価の結果を取りまとめ、公表する

学校関係者評価の基礎資料とする

自己評価の実施（例）

項目	番号	重点目標	指標	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
							評価	学校関係者評価で頂いた意見・要望等
分かる授業・楽しい学校	1	個に応じた指導の充実	・分かる授業やきめ細かな授業で学力向上を図っている。 【全体アンケート】生徒の肯定的回答が80%以上	・各学年で朝の学習計画を立て「数学ワーク」等を積極的に活用した。生徒たちも目標を持って意欲的に取り組んだ。 ・家庭学習については宿題以外の発展的な学習も含めて、継続した指導が必要である。				
	2	特別支援教育の充実	◆校内研修を年3回以上実施する。	・組織的な体制で特別支援を要する生徒への学習支援、行動支援を行うことができた。 ・校内研修を年に3回実施し、交流と指導方法の共通理解を図った。				
	3	あいさつ運動の推進	・元気にあいさつし、気持ちよい言葉遣いをしている。 【全体アンケート】生徒の肯定的回答が80%以上	・地域、保護者、生徒の代表があいさつ運動を行った。 ・生徒アンケートでも自分からあいさつをしていると答えた割合は80%を超えた。				
	4	いじめ・不登校への対応	・教職員は、誠実に熱心に教育に当たっている。 【全体アンケート】生徒の肯定的回答が80%以上	・校内での生徒同士のトラブルを自分たちで解決できるようになった。 ・生徒指導研修において、全教職員による情報交換、共通理解を図り、組織的な指導が出来るようになった。				
家庭・地域との連携	5	周辺施設、外部人材の積極的活用	◆地域の人材を活用した授業を3回以上実施する。	・総合的な学習の時間において、地域の施設の利用や人材の導入を図った。「その道のプロ」からの講話、技にふれることで学習が深まった。				
	6	健康、体力づくりの推進	◆地域集会を2回以上開催する。	・「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣化について、地域集会をもって発信した。 ・町内スキー大会に参加することにより、自分から積極的に屋外スポーツに親しむ子どもが増えた。				
情報発信する学校	7	学校だより、ホームページなどを活用した積極的な発信	◆学校評議員会を年3回開催する。	・学校だより、学年だよりに加え、学校ホームページを全面リニューアルして、学校情報を発信した。また、ブログにより日常の生徒の様子を細かに発信した。 ・学校評議員会を年3回開催し、その内容を校長だよりとして知らせた。				
学校運営	8	事務の改善、各種会議の効率化	・効率的な学校運営の中、ゆとりある教育活動が行われている。 【全体アンケート】教職員の肯定的回答が80%以上	・資料の事前配付の徹底により、会議の時間が短縮した。 ・臨時の会議や打合せは、増える傾向にあり、改善されたとはいえない。				

(2) 外部アンケートの実施

目標の適切さや取組の達成状況について検証するため、保護者や児童生徒対象の外部アンケートを実施し、その満足度や要望等を把握します。

また、項目を工夫することにより、児童生徒自身の学習や学校生活に対する振り返りを促したり、保護者自身の学校への関心・意識を高める効果が期待できます。

目的に合わせたアンケート項目の検討

- ◇ 外部アンケート項目

対象者	アンケート項目 (例)
児童生徒	学習・学校生活
保護者 学校評議員	重点的な目標や取組、子どもや学級・学校の様子、 分かる授業・楽しい学校、家庭・地域・学校の連携、 学校からの情報発信、環境整備、家庭教育 等

- ◇ 数値等で表しにくい項目については自由記述欄を設ける。

アンケートの実施

- ◇ 原則として記入者が特定されない配慮が必要
(方法例：無記名 封筒に入れて回収 回収箱設置 等)
- ◇ 対象者の満足度や要望を把握する。

学校便りやホームページ等で結果を公表

自己評価や学校関係者評価の基礎資料とする

- ◇ 当該年度の重点目標に関するアンケート項目については、評価の資料の一つとなる。



Point アンケート集計作業の軽減化のために・・・

- 年間評価計画での調整
年間評価計画を作成する際に、対象者(だれに)、目的(何を把握したいのか)、時期(いつ)、方法(どんな方法で)、担当者(だれが)等について決めておくことで、作業を計画的に進めることができます。
- アンケート項目を絞り込む
目的に応じて項目を吟味し、本当に必要な項目のみに絞ることで、簡素化が図られます。回数についても、最小限に抑えることが大切です。
- マークシート式アンケートの導入
マークシート処理システムを使って学校で作成したアンケート用紙(普通紙)をスキャナで読み取り、自動集計することで短時間で集計作業を済ませることができます。 ➡ P.37

児童生徒・保護者アンケート（例）

児童アンケート（例）

学校生活や学習の満足度を把握し、その結果を学校生活や授業改善につなげていきます。児童生徒自らの学習に向かう姿勢を振り返らせることも大切です。

〈学校生活アンケート〉（小学校 低学年用）

1	がっこうはたのしいですか。
2	じぶんからすすんであいさつができていますか。
3	ともだちとなかよくできていますか。
4	こまったことがあれば、先生に相談できていますか。
5	こまっているともだちがいたらしんせつにできますか。
6	きまりをまもられていますか。
7	とうばんのしごとはしっかりできていますか。

〈学習アンケート〉（小学校 高学年用）

1	授業は分かりやすいですか。
2	授業に集中して取り組むことができますか。
3	学習用具は忘れずに持ってきていますか。
4	授業では新しいことを知ったり、体験したりすることができますか。
5	授業中、先生や友達の話をしっかり聞くことができますか。
6	授業中、先生や友達はあなたの話をしっかり聞いてくれますか。
7	分からないときは質問できましたか。
8	家の人に言われなくても、進んで勉強していますか。

保護者アンケート（例）

各学校等が保護者から一方的に評価されるのではなく、保護者自らが、学校教育への関心を高めたり、家庭教育の役割を意識したりする工夫も必要です。⇨ P28. P29参照 《保護者アンケート》

1	楽しく学校へ通っている。
2	友達と仲良く生活している。
3	遠足・運動会・学芸会などの学校行事を通して成長する姿がみられる。
4	授業は分かりやすいものに工夫されている。
5	地域を生かした特色ある教育活動が行われている。
6	家庭学習（自学）を通して学習意欲を高めている。
7	子どもたちの挨拶や礼儀への指導の様子が伺える。
8	（学校は）子どもたちの正しくない行動に対して毅然とした態度で指導している。
9	子どもの悩みや心配事に耳を傾け、解決に導いている。
10	掃除や給食などの当番活動の指導の様子が伺える。
11	子どもの良さや努力の様子を様々な面で見取っている。
12	学校の環境は安全で安心できるものに整えられている。
13	学校は参観日の全体懇談や便りを通して教育方針を分かりやすく伝えている。
14	急な対応にも家庭との連絡が密となるよう、便りなどで迅速に対応している。
15	学校では子どもや保護者の相談にのってくれ、適切に対応している。
16	学校は家庭との連絡や意思疎通を積極的に行っている。
17	通信などを通して子どもたちの様子や学習の様子を分かりやすく伝えている。
18	懇談、保護者面談などは子どもの日常の様子がよく伝わる内容になっている。
19	通知表は見やすく分かりやすいものになっている。
20	学校の教育目標を家庭でも理解している。
21	学校から配布される文書や学級通信にはすべて目を通している。
22	お子さんを励ましたり意欲をもたせたりするために家庭では通知表を活用している。
23	学校であったことを中心に親子での会話を大切にしている。
24	「早寝・早起き・朝ごはん」を欠かさず行っている。



経年比較をする場合、同じ設問でアンケートを行いますが、全く同じであるとマンネリに陥り、回収率を下げることもつながります。

設問や回数については十分な検討と見直しが必要です。

VI. 学校関係者評価

自己評価の結果を学校関係者評価委員会の評価組織に提示し、評価を受けることが基本になります。そのことによって、自己評価の客観性・透明性を高めるばかりでなく、学校と保護者、地域住民等が学校の現状と課題についての共通理解を深めることができ、保護者や地域住民等の学校運営への参画が期待できます。

学校は、学校関係者評価委員会に対し、重点目標や具体的な取組等の自己評価結果を説明する。また、学校関係者評価委員会は、授業や学校行事の参観、施設・設備の観察、校長など教職員や児童生徒との対話を行う。

- ◇ 学校関係者評価の評価組織としては、原則として既存の学校評議員会を活用する。
- ◇ 必要に応じて、自己評価の結果の裏付けとなる資料(教職員による評価、外部アンケート、各種教育活動データ)を提示する。



外部アンケートの実施のみをもって学校関係者評価を実施したとは見なしません。

学校関係者評価委員会は、学校の自己評価の結果及び今後の改善策、重点目標や評価項目の在り方等について評価する。

- ◇ 年度途中で中間評価を行うことも考えられる。
- ◇ 評価の観点
 - ・ 自己評価の結果の内容が適切かどうか。
 - ・ 自己評価結果を踏まえた今後の改善策が適切かどうか。
 - ・ 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。
 - ・ 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか。 等

学校は、学校関係者評価の結果を踏まえ、今後の改善方策を見直し、評価の結果と今後の改善方策を学校評価報告書に記述する。

- ◇ いただいた意見・要望等を各学校等で取りまとめ「学校関係者評価でいただいた意見・要望等」として公表を前提に記述する。 → P18参照

学校便りやホームページ等で結果を公表する。また、町教育委員会へ提出する。

- ◇ 年度内に公表するが、学校関係者評価委員会の開催時期によっては、次年度当初の公表もありうる。

自己評価結果に学校関係者評価を加えて記述及び公表するとともに町教委への報告を行います。

[○○中学校の例]

項目	No	重点目標	指 標	取組状況・成果・課題	評価	改 善 策	学校関係者評価	
							評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
分かる授業、楽しい学校・幼児センター	1	個に応じた指導の充実	・分かる授業やきめ細かな授業で学力向上を図っている。【全体アンケート】生徒の肯定的回答が80%以上	・各学年で朝の学習計画を立て「数学ワーク」等を積極的に活用した。生徒達も目標を持って意欲的に取り組んだ。 ・家庭学習については宿題以外の発展的な学習も含めて、継続した指導が必要である。	B	・「数学道場」として、個別指導の時間を設け、つまずきの早期発見、解決を図る。 ・家庭学習の方法や家庭での協力の仕方について、「教科通信」や「学年だより」で啓発する。	B	・塾に行かせなくても大丈夫という安心感をもたせて欲しい。 ・反復したり、暗唱したりして身に付くことが多いと思う。
	2	特別支援教育の充実	◆校内研修を年3回以上実施する。	・組織的な態勢で特別支援学級への学習支援、行動支援を行うことができた。 ・校内研修を年に3回実施し、交流と指導の共通理解を図った。	A	・来年度に向けての引継ぎを確実にし、年度当初からのスムーズな学習支援、行動支援を心がける。	A	・特別支援教室の配置や個々の生徒への対応の様子から先生方には感謝している。今後も今の取組を継続してほしい。
	3	あいさつ運動の推進	・元気にあいさつし、気持ちよい言葉遣いをしている。【全体アンケート】生徒の肯定的回答が80%以上	・地域・保護者・生徒の代表があいさつ運動を行った。生徒アンケートでも「自分からあいさつをしている」と答えた割合は80%を超えた。	A	・生徒会にあいさつ運動をリードする役割を担わせ意識付けを図っていく。 ・自分からその場に応じた、振る舞いができるように学級指導の中で話をしていく。	A	・地域で声をかけている大人が少ない。大人が見本となるような社会にしなければならない。 ・場面に応じた挨拶が出来れば良いと思う。
	4	いじめ・不登校への対応	・教職員は、誠実で熱心に教育に当たっている。【全体アンケート】生徒の肯定的回答が80%以上	・校内での生徒同士のトラブルが自分達で解決できるようになった。 ・生徒指導研修において、全職員による情報交換、共通理解を図り、組織的な指導が出来るようになった。	B	・スクールカウンセラーとの情報交換、共有をさらに図っていく。 ・引き続き、いじめのない仲間づくりを大切に指導を全職員で取り組む。	B	・小さなトラブルでも学校から連絡をいただきたい。 ・懇談会などでもっと生徒の様子を知らせる場面を作っていただきたい。
幼児センター、地域、学校の連携	5	周辺施設、外部人材の積極的活用	◆地域の人材を活用した授業を3回以上実施する。	・総合的な学習の時間において、地域の施設の利用や、人材の活用を図った。「その道のプロ」からの講話、技にふれることで学習が深まった。	A	・地域施設との連携を図り、効果的な利用の仕方について、検討する。 ・町役場や商工会と連携して人材の発掘と活用に努力する。	B	・外で運動できる休み時間を確保し、体力づくり奨励の活動を行う。
	6	健康、体力づくりの推進	◆地域集会を2回以上開催する。	・「早寝、早起き、朝ご飯」の習慣化について、地域集会をもって発信した。 ・町内スキー大会に参加することによって、自分から積極的に屋外スポーツに親しむ子どもが増えた。	B	・外で運動できる休み時間を確保し、体力づくり奨励の活動を行う。	A	・部活動の中で鍛えられる部分は大きいと思う。指導していただいている先生方には大変感謝している。
情報発信する学校・幼児センター	7	学校だより、ホームページなどを活用した積極的な発信	◆学校評議員会を年3回開催する。	・学校だより、学年だよりに加え、学校ホームページを全面リニューアルして、学校情報を発信した。また、ブログにより日常の生徒の様子を細かに発信した。 ・学校評議員会を年3回開催し、その内容を校長だよりを通して知らせた。	A	・学校関係者評価がより成果のあるものになるよう、学校評議員会の内容と時期を検討する。 ・学校だより、ホームページ等は、引き続き発信する内容を充実させていく。	B	・学校からの文書が家できちんと読まれると良いと思う。 ・予算のこともあるだろうが、カラー印刷にして、読みやすい紙面をつくっていただきたい。
センター・幼児センター	8	事務の改善、各種会議の効率化	・効率的な学校運営の中、ゆとりある教育活動が行われている。【全体アンケート】教職員の肯定的回答が80%以上	・資料の事前配付の徹底により、会議の時間が短縮した。 ・臨時の開催打合せは、増える傾向に有り、改善されたとはいえない。	B	・分掌のリーダーとともに会議、打合せ等の精選と効率化について、検討する機会をもつ。	B	・民間でも打合せの効率化について努力している。会議の効率化を図り、できるだけ生徒とともに過ごす時間を増やすように期待したい。

VII. 第三者評価

第三者評価とは

第三者評価は、学校運営に関する専門性をもった外部の有識者が中心となり、自己評価や学校関係者評価に加え、学校評価全体を充実する観点から適切性・妥当性を専門的・客観的視点から評価を行います。

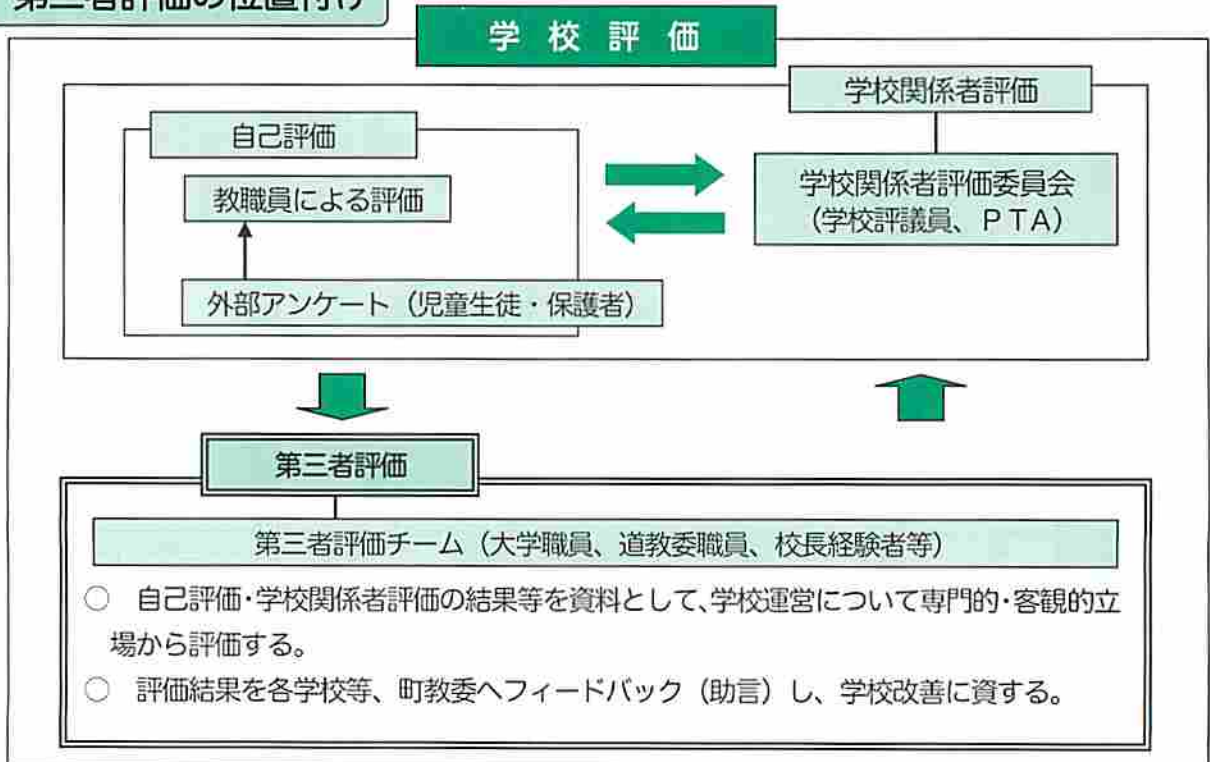
評価チームは、学校関係者(保護者、学校評議員、地域住民等)ではなく、かつニセコ町教育委員会とも直接の関係を有しない者(大学職員、道教委職員、校長経験者など)で、教育に関する専門性をもった評価者により構成されます。評価チームは学校評価の課題や改善点を示しながら、各学校等における教育活動の改善を目指し、学校の自己評価や学校関係者評価等を支援していきます。

第三者評価の評価すべき事項

第三者評価において評価すべきこととして、次の二つを重視します。

- ① 各学校等が教育目標やその他の教育上達成すべき目標の設定・達成に向けて、適切に取り組んでいるかを評価します。
- ② 自己評価や学校関係者評価が適切に実施され、その評価結果が学校運営の改善に適切に結び付けられているかなど、学校運営のPDCAサイクルの実施状況の評価します。

第三者評価の位置付け



第三者評価の進め方

評価の進め方については、自己評価及び学校関係者評価の評価終了後、評価内容の情報を共有し、評価対象校の日常的な授業や課外活動の様子、施設等の教育環境の状態、教職員などからのヒアリングを通して、学校の優れた取組や学校運営の課題とその改善策など、改善に向けた助言を各学校等に行います。第三者評価は当該校の教職員が見逃している成果を掘り起こし、学校に「やる気」と「改善」に向けた新たな気付きをもたらします。

第三者評価の内容については、職員会議などで意見調整し、全教職員の共通理解のもと学校関係者評価報告書に追記し教育委員会に提出します。

事前の準備

- ◇ 各学校等(町教委)が、各学校等や地域の実情及び自己評価・学校関係者評価の結果等を踏まえて、評価項目を設定する。その際、課題となっている事項を中心に評価項目を重点化する。
- ◇ 各学校等は自己評価や学校関係者評価の結果、各種調査の結果等を取りまとめ、第三者評価チームに提示できるようにする。

評価の実施

- ◇ 第三者評価チームは、定められた実施時期や日程に基づき評価対象校を訪問し、授業の観察や教職員等からのヒアリングを実施する。
- ◇ 第三者評価チームは、事前に示された評価項目に沿って評価を実施し、評価結果を自らの責任を以て取りまとめる。その際、優れた取組や今後の学校経営の改善につなげるための課題や改善の方向性等について示すようにする。

事後の対応

- ◇ 第三者評価チームは、評価報告書を評価対象校へ提出する。その際、例えば、評価者が事後訪問して評価結果について説明や意見交換を行うなど、評価対象校が評価結果を適切に理解できるようにする。
- ◇ 各学校等は、評価結果を確実に改善に結び付けていくよう、職員会議などで職員に周知し、全教職員の共通理解のもと、学校評価報告書として町教委へ提出する。

公表

- ◇ 各学校等は評価結果を踏まえて学校・幼児センター運営の改善に努めるとともに、保護者や地域に積極的に公表する。

VIII. 評価結果の公表

評価結果は、その分析と考察をもとにした改善策を明らかにして自校の教育活動に活かすとともに、保護者・地域の方にも積極的に公表していくことが大切です。評価結果を公表することで、説明責任を果たし、各学校等と家庭・地域がお互いの役割を明らかにしていくことが期待できます。

公表のポイントと留意点

- ◇ 外部アンケート実施後、自己評価の結果と今後の改善策を併せて公表する。
- ◇ 自己評価の結果・学校関係者評価の結果公表については、学校便りやホームページ等で幅広く公表する。
- ◇ 公表に際しては、個人情報の保護等に十分配慮し、個人が特定されないように留意する。
- ◇ 自己評価・学校関係者評価の結果については、学校評価報告書として、町教委へ提出する。

外部アンケート

- 実施後できるだけ速やかに公表する。そのためにも項目は目的に合わせて絞り込むことが望ましい。
- 特徴的な項目、課題がある項目を絞って公表してよい。

自己評価

- 課題となる項目は、集計や分析の結果だけでなく改善策も明らかにして公表する。
- PTA総会を活用して保護者等を対象とした説明会を行ったり、学校のホームページ等へ掲載したりすることにより、広く内容が周知されるようにする。

学校関係者評価

- 自己評価と併せて、〈学校評価報告書〉として公表すると、外部の方にも分かりやすく効果的である。 → P18
- 「改善策」の欄について再度見直しをするなど、いただいた意見、要望を踏まえた改善の方向性に触れて取りまとめるのが望ましい。
- 年度内に公表することが望ましいが、学校関係者評価委員会の開催時期によって、次年度当初の公表もありうる。

Point



広く公表を

学校評価結果など、学校運営全般に関する情報提供は、学校評議員やPTA役員等だけではなく、広く一般の保護者や地域住民を対象とすべきであるとの観点から、学校便りやホームページに掲載することを「公表」とします。

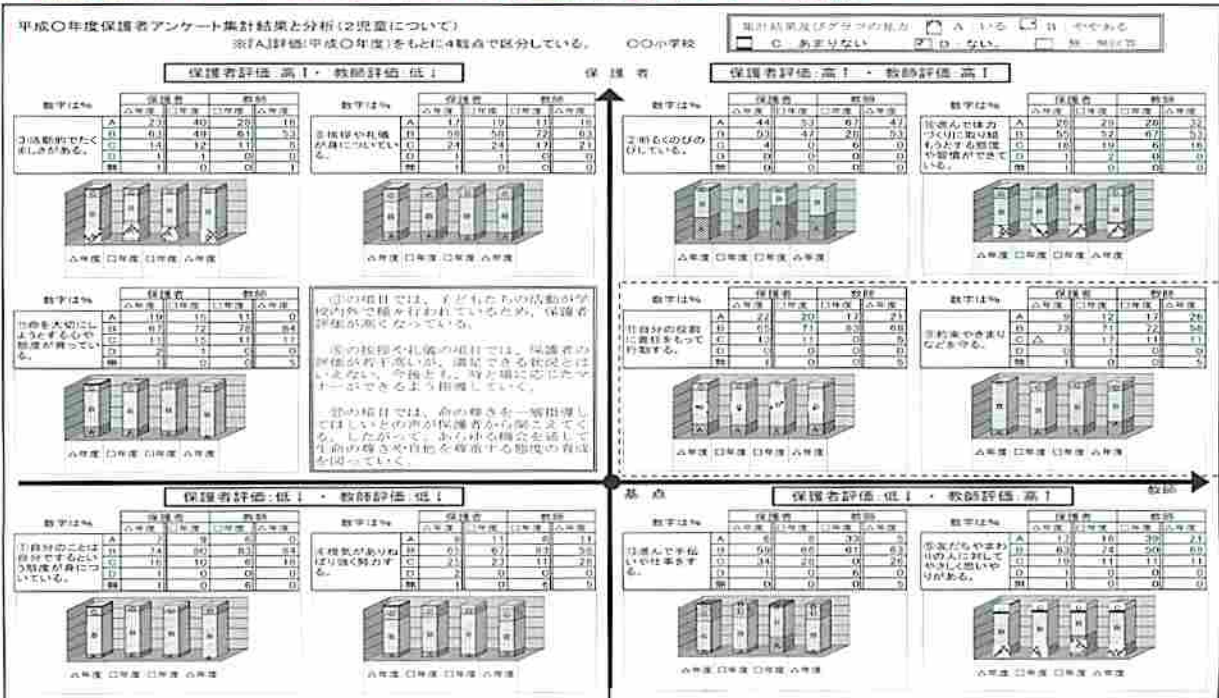
評価結果の公表 (例)

学校評価で実施した保護者アンケート、教職員による評価の結果の公表を例として挙げています。集計結果だけでなく学校としての考え方、保護者への呼びかけ等も示しています。

～学校評価結果の分析と改善策 (一部抜粋)～

平成24年度 学校評価結果分析と改善策		二セコ町立〇〇学校													
注1) 青塗りは前年度より0.3ポイント以上下がっている項目、赤塗りは前年度より0.3ポイント以上上がっている項目です。															
注2) 無回答については、Eの「わからない」に入れました。															
(結果のおおまかなとらえ)															
1 保護者からの回収数は前年度より3.0%ほど下がっているが、保護者による評価結果は前年度とほとんど同じである。そのため、保護者は平成24年度の本校の教育活動が、前年度と大体同じようだと感じている様子がとらえられる。															
2 教職員の回収数は前年度とほぼ同じだが、教職員による評価結果は全体的に下がっているものが多い。そのため、教職員は平成24年度の本校の教育活動が十分ではない面があった、あるいは課題があったと感じている様子がとらえられる。															
3 保護者と教職員の評価との差が0.5ポイント以上の項目は3つあった。(項目14、17、24)															
(No.1)															
No	項目	職員自己評価					保護者評価					23年度 職員 評価	22年度 職員 評価	23年度 保護者 評価	考察と改善への方策
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E				
学校運営	1 本校は、学校だよりや学級通信などにより、学校の考えや教育活動を地域に発信している。	10	8	0	0	0	14	33	6	0	2	3.6	3.3	3.2	○職員・保護者アンケートともに高い結果を得た。プログラムの継続等、今後もより一層の充実を図っていきたい。
	3.6 (前年度比±0)	3.2 (前年度比±0)										3.6	3.3		
	2 本校は、「報告・連絡・相談」を意識して情報を共有し、連携をとり分業業務等を円滑に行っている。	4	7	6	0	0	3.1 (前年度比-0.4)					3.3	3.4	△「安全」等は昨年度より0.3ポイント下がっていることから、問題点を明らかにし、改善を図りたい。	
2.9 (前年度比-0.4)	3.1 (前年度比-0.4)	3.4	3.4	3.3											
教育課程	3 本校は、安全管理や事故防止を意識して日常の教育実践を行っている。	6	8	6	0	0	4	17	4	1	6	3.1	3.0	●0.6ポイント下がっていることから、具体的な問題点を明らかにし、改善を図りたい。	
	3.1 (前年度比-0.2)	2.9 (前年度比-0.4)										3.4	3.4	3.3	
学習指導	4 本校は、新学習指導要領に対応する教育課程編成が適切に行われている。	4	9	3	0	2	3.1 (前年度比-0.2)					3.3	3.0	○項目によって0.1~0.2ポイントの下がりは見られるが、学校における学習習慣づくりは定着し、成果も出ている。	
	3.1 (前年度比-0.2)	3.1 (前年度比-0.2)	3.1	3.1	2.7										
	5 本校は、分かる授業・できる授業に努め、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。	3	13	1	0	1	1	20	9	2	1	3.1	3.1	2.7	△普校の家庭学習習慣の定着については、保護者、教職員共に2.1ポイントとやや厳しい評価となっていることから、自主学習についての指導を工夫し意欲を高めた
学習指導	6 本校は、個々の課題に対応するきめ細かな学習指導を行っている。	2	14	1	0	1	5	16	8	3	1	2.9	2.7	2.9	
	3.1 (前年度比+2)	2.7 (前年度比-0.2)										2.9	2.7	2.9	
	7 本校の生徒は、学習の仕方を理解し、自ら計画的・継続的に学習する態度が育てられている。	0	5	9	2	1	1	9	12	8	2	2.1	2.3	2.3	
2.2 (前年度比+1)	2.1 (前年度比-0.2)										2.1	2.3	2.3		

～保護者アンケートと教職員による評価結果と分析 (一部抜粋)～



IX. 学校情報の積極的発信・受信

各学校等に関する情報が分かりやすく示され、保護者等が各学校等の状況を把握できるようにすることが大切です。また、各学校等が教育活動の方針や具体的な取組の様子を外に向かってアピールすることは、保護者や地域住民等の理解や支援を得る絶好の機会にもなります。

情報発信の方法

- ◇ 学校便りやホームページ等への掲載
- ◇ PTA総会、保護者説明会、教育懇談会等を活用しての説明
- ◇ 授業参観、授業公開、学校公開日、学校行事を活用しての説明
- ◇ 学校評議員会、PTA役員会等を活用しての説明
- ◇ 町民講座等を活用して、児童生徒の生活・学習状況の実態の説明、意見交流
- ◇ ラジオニセコを活用した発信
- ◇ 町内会の回覧による閲覧

情報提供の内容

- ◇ 保護者や地域住民等と情報や課題を共有するための情報例
 - ・ 重点目標及び教育計画
 - ・ 特色ある教育活動
 - ・ 学習指導の状況
 - ・ 子どもの生活の状況
 - ・ 安全管理、保健管理に関する情報
 - ・ 家庭、地域との連携の状況
 - ・ 自己評価やアンケート結果の公表
 - ・ 学校関係者評価委員会の役割や活動状況 等

情報提供に当たっての留意点

- ◇ 保護者等外部の方にも分かりやすく、関心もてる内容の発信を工夫する。どんな情報について保護者や地域住民が知りたいと思っているのかを把握する努力も必要である。保護者や地域住民にとって興味・関心のある内容についての情報をしっかりと伝えることで、コミュニケーションや協働・参画のきっかけとなる。
- ◇ 情報の公開・提供に当たっては、個人情報の保護や、公開に適する内容かどうかなど、十分に配慮する必要がある。
- ◇ 特に、帰宅時間、通学路等に関する詳細な情報の提供については、子どもの安全を確保するため、情報提供の方法、内容及び提供範囲に注意を払うことが必要である。

情報発信（例）

学校便りやホームページに教育計画や学校評価の情報を掲載し、保護者や地域住民等に学校活動の内容を積極的に発信します。

～家庭・地域との連携～

3年生の職場体験!! 21事業所で

8月30・31日両日、今年も町内の各事業所の皆様にご協力をいただき、職場体験学習が実施されました。町の施設、飲食店、小売り販売業、宿泊施設、医療機関等、21カ所に分かれ、貴重な体験をさせていただきました。働くことの楽しさ、大変さ、人とのつながりを身をもって経験し、将来の自分の進路について考える機会となりました。お忙しい中、生徒を受け入れて下さった各事業所の皆様には大変お世話になりました。また、来年度もよろしくお願いたします。



連携の向上を目指し

音楽部のミニコンサート デイサービスセンター

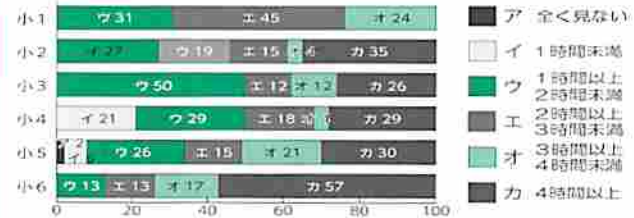
薩摩川内の子ども達との交流 & 百人一首の会

ニセコ町の取り組みに本校生徒も参加!



～「生活学習アンケート」の公表（一部）～

「普段一日当たりのテレビやDVDの視聴、ゲームを行っている時間」です。「カ：4時間以上」に思わず目が行きます。「3時間以上(4時間以上を含め)～」児童の40%以上がテレビやゲームに向かっています。普段一日当たりのテレビやDVDの視聴、ゲームを行っている時間



学校以外での読書時間

「家庭での読書時間」学年差はありますが、家庭での読書時間が「0～10分以下」で40%を占めています。情報が次から次へと



飛び込んでくる現代、その情報を咀嚼できない児童生徒が多くなりました。じっくりと時間をかけて選択したり、未知なる体験に心を躍らせたり、自分と向き合うことができる「読書の時間」を「テレビ等の時間」から割いてほしいものです。

～「特色ある取組」を地域に発信～

北海道〇〇〇高等学校 学校だより

〇〇〇 高校活動報告会

2月13日(水)に、ニセコ町民センターで本校の活動報告会を開催しました。昨年度から開始し、多くの方に来ていただいたこの報告会。今回はオーストラリア短期語学研修に参加した1年生の発表、マレーシアの見学旅行に行った2年生の発表、2年地域観光班による発表、4年生の研修報告、農業クラブ執行部によるクラブ発表の計5発表を行いました。農業クラブ会長の〇〇さんは「来年度はもっと多くの町民の皆様



にお越しいただけるよう、より内容の充実した報告会にしていきたいと思う」と意欲的に話していました。

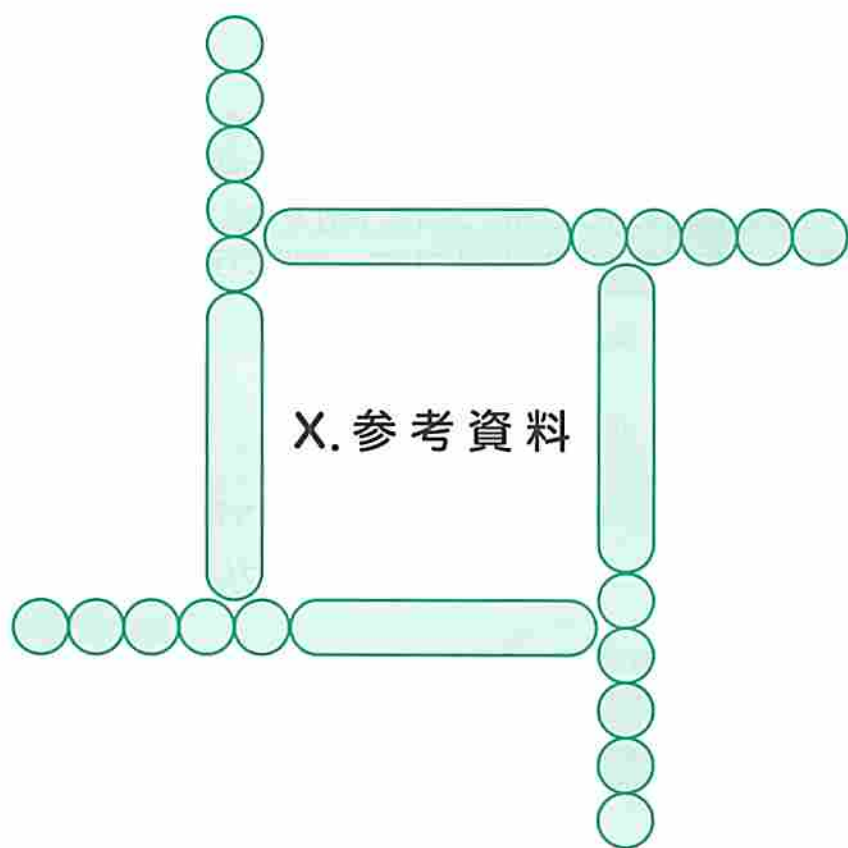
校内実践発表大会～1年間の学習の成果を披露～

ニセコ町民センターにて校内実績発表大会を実施しました。この大会は、1年を通してプロジェクト活動で実践したことやその成果をまとめて発表し、研究した内容などについて審査するものです。発表

会に取り組むことによって、プロジェクトの計画と結果の確認、また、次のプロジェクト活動へつなげるステップになります。さらに、表現力、発表力、企画力、および総合的な実践力を身に付けることができます。

本校では、2・3年生が学年ごとに4つの専攻班【農業工学班・自然環境班・地域観光班・生活文化班】に分かれ、3つの区分【食料・生産・環境、文化・生活】からテーマを選定し、授業や課外活動などで、日頃のプロジェクト活動を行ってきました。発表はプレゼンテーションソフトを使い、1班10分間で行います。また、エキシビジョンとして4年生の〇〇君が、1年間道内外で行った研修の成果を発表しました。





X. 參考資料

(1) 学校評価 (例)

幼児センターにおける学校評価 (例)

幼児センターにおける教育活動は、小学校以降の教育活動とは異なり、環境を通して総合的なものであること、保護者も毎日来園することなどの特性があります。

幼児センターの学校評価を行うに当たっては、特性を踏まえるとともに、「ニセコ町幼児センター経営概要」等に示された内容に基づいて、適切に行う必要があります。

平成24年度 自己評価書	
氏名(_____)	
評価期間	平成 年 月 日() ~ 月 日()
評価基準	A→十分達成されている B→達成されている C→成果が十分でない D→取組が不十分である
※ A・Bの評価には成果を、C・Dの評価には改善の方策の記入をお願いします。	
保育・教育目標	「きらっとかがやく かしい子 あかるい子 げんきな子」
1. 経営方針	<ul style="list-style-type: none">① 幼稚園教育要領・保育指針を基にした教育活動の充実を図る。② 教育目標の達成に向けた教育課程の編成実施と指導計画に基づいた支援・指導の充実を図る。③ 組織の活性化と一人一人の能力を結集させた和親協働に努める。④ 保護者や関係機関との連携を図った意図的・計画的な運営に努める。⑤ 幼稚園型と保育所型を融合させた保育・教育の充実に努める。
2. 具体的な内容	<p>【教育課程・保育・教育活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 幼稚園教育要領・保育指針の目標・内容を教育課程に生かし、年間・期・月の指導計画に基づいた意図的・計画的な指導・支援を行う。○ 園児・職員・保護者相互が温かい人間関係と信頼関係を築き、一人一人の園児の理解を深め、園児がより豊かな生活体験を得られるようにする。○ 地域に開かれた教育及び保育活動を推進する。 <p>【幼稚園型教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 3歳児以上の午前中における教育活動の点検・見直しを行い、内容の充実を図っていく。○ 行事を精選し、保育・教育活動の時間を確実に確保しながら、子どものための保育・教育活動を展開する。 <p>【組織の活性化と園務分掌の具現化】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 保育者一人一人が職責を自覚し、積極的に保育・教育にかかわる。○ 職員が連携し、主体的な運営が出来る組織の充実に努める。 <p>【研究・研修の充実】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 積極的に研修に努め、自らの資質と能力の向上に励む。○ 研究・研修の成果が園児の姿やセンターの環境となって見えるように努める。 <p>【安心・安全なセンターづくり】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 子どもが安心して過ごす事ができる環境づくりに努めるとともに、一人一人が心地よい空間を享受できる環境構成を図っていく。 <p>【保護者との連携及び情報の発信】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 保護者との連携を密にした情報の伝達や日常の接触を大切にした学級運営に努める。 <p>【基本的な生活習慣・態度の育成】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 指導事項を明確にし、基礎・基本は繰り返し指導する。 <p>【特別支援教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 個別の支援計画を策定し、支援体制・支援内容を積極的に進める。 <p>【英語教育】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 子どもたちが国際語である英語を通して、異文化に触れて楽しく遊ぶ中で、英語や外国人に対して構えることなく、コミュニケーションの手段として英語を捉え進める。 <p>【小学校との連携】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 小学校との「格差」を小さくするため小学校と積極的に連携を進める。

教職員による評価（例）

分野	評価項目	達成状況	成果・改善の方策
教育活動・保育教育活動の充実	1.指導計画に基づいた意図的・計画的な指導・支援を行っている。		
	2.園児・職員・保護者相互が温かい人間関係と信頼関係を築いている。		
	3.園児一人一人の理解を深め、園児がより豊かな生活体験を得られるようにしている。		
	4.地域に開かれた教育及び保育活動を推進している。		
幼稚園教育の充実	5.三歳児以上の午前中における教育活動の点検・見直しを行い、内容の充実を図っている。		
	6.行事の精選を積極的に進めている。		
組織の活性化	7.保育者一人一人が職責を自覚し、積極的に保育・幼児教育にかかわっている。		
	8.職員が連携し、主体的な運営ができる組織になっている。		
研究・研修の充実	9.積極的な研修に努め、自ら資質と能力の向上に励んでいる。		
	10.研修・研究の成果が園児の姿やセンターの環境に現れている。		
安心・安全な園づくり	11.子どもが安心して過ごすことができる環境づくりに努めている。		
	12.事故等の未然防止や園児の安全確保に努めている。		
	13.給食指導を適切に行い、正しい食習慣を身に付ける指導がされている。		
保護者との連携	14.保護者との連携を密にした、情報の伝達や日常の接触を大切にした学級経営に努めている。		
規範意識	15.集団でのきまりやルールを繰り返し指導している。		
特別支援	16.個別の支援計画を策定し、支援体制・支援内容を積極的に進めている。		
英語教育	17.「英語であそぼう」を通して異文化に触れ、楽しく遊ぶ中で、ALT や子ども同士の交流がなされている。		
他学校との連携	18.小学校との「格差」をなくすため積極的に連携を進めている。		
	19.中高生などの体験学習や実習生を積極的に取り入れている。		

子育て支援

【子育て支援の充実】

- 保護者の子育てを支えるとともに、子育て家庭に子育ての喜びを実践できるよう支援を行う。

子育て支援	20.子どもの発達や育児などについて、保護者との共通理解を深めたり、子どもの成長の喜びを共有する機会を設けている。		
	21.育児や教育に関するニーズに応じて、安心して子育てができるよう支援している。		
	22.中高生などの体験学習を積極的に受け入れ、次世代の育成を支援している。		

保護者アンケート（例）

A：あてはまる B：だいたいあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない

設問項目	A	B	C	D
1. 子どもたちは、センターへ行くのを楽しみにしている。				
2. センターでは、子どもたちに温かい態度で接している。				
3. センターでは、子どもたちの基本的な生活態度が身に付くように指導している。				
4. 子どもたちは、センターの行事に喜んで参加している。				
5. 環境を有効に利用し、遊具・用具等を活用した保育・教育が行われている。				
6. 子どもたちの健康状態を適切に捉えた活動が行われている。				
7. 施設・設備は安全でよく整備・管理されている。				
8. センターの情報を、園便りや学級便りなどで適切に伝えている。				
9. センターでは、適切な給食指導が行われている。				
10. 保護者との連携や意思疎通を積極的に進めている。				

高校における学校評価（例）

高校における学校評価は、生徒自らが選択して受検することや、保護者居住地の広域性等を考慮し、特色ある教育活動への理解と生徒の自己実現に向けた取組を中心とした情報発信を積極的に行い、生徒や保護者、地域住民の思いや願いに応える学校運営改善に資することが大切になります。

保護者アンケート（例）

4 十分そう思う。 3 概ねそう思う。 2 あまりそう思わない。 1 全くそう思わない。

No.	評価の観点	評価
学校運営関係		
1	保護者は、本校の教育活動の内容をよく知っている。	
2	本校の教育は、保護者や地域の願いに応えている。	
3	本校は、地域や保護者に対して、学校だよりやWebページ等で学校の情報をよく伝えている。	
4	本校は緑地観光科として、その特色を十分生かした教育活動を行っている。	
5	本校は、PTAや地域との交流に積極的に取り組んでいる。	
6	本校の生徒は、誇りをもって、明るく楽しい高校生活を送っている。	
7	本校の職員は、保護者からの相談や連絡等に迅速かつ誠意をもって対応している。	

学習指導関係

8	本校は、生徒一人一人に、各教科の基礎的・基本的な学力を身に付けさせている。	
9	本校は、生徒一人一人に、シラバスの活用を通して学習内容や評価方法等の理解を図っている。	
10	本校は、学習の成果についての評価を適切に行っている。	

授業評価アンケート（例）

【授業や教科担任の先生について】

A：そう思う B：だいたいそう思う C：あまりそう思わない D：全く思わない

	質問項目	評価			
1	先生の声ははっきりしていて、聞き取りやすい	A	B	C	D
2	先生の板書は丁寧で分かりやすい	A	B	C	D
3	先生の授業のスピードは・・・	Aちょうど良い B早い C遅い			
4	先生はプリントなどを活用し工夫して授業している	A	B	C	D
5	先生は、質問に丁寧に分かりやすく答えてくれる	A	B	C	D
6	先生の授業は理解しやすい	A	B	C	D

【あなたの授業に向かう姿勢について】

A：そう思う B：だいたいそう思う C：あまりそう思わない D：全く思わない

質問項目		評価			
1	あなたは教科書やノート、実習の服装などいつも授業の準備をきちんとしている	A	B	C	D
2	あなたは予習や復習をしている	A	B	C	D
3	あなたは私語や居眠りをせず、授業に集中して取り組んでいる	A	B	C	D
4	あなたは授業中、積極的に質問や発表・発言をしている	A	B	C	D
5	あなたはノートやプリントの記入、提出物に熱心に取り組んでいる	A	B	C	D
6	あなたはテストに向けて、きちんと勉強している	A	B	C	D
7	あなたは学習内容が理解でき、身に付いている	A	B	C	D
8	1～7を踏まえ、あなたはどの授業にも積極的に参加している	A	B	C	D
9	普段、授業に積極的に参加する雰囲気がクラス全体にある	A	B	C	D

学校関係者評価（例）

【学校運営】

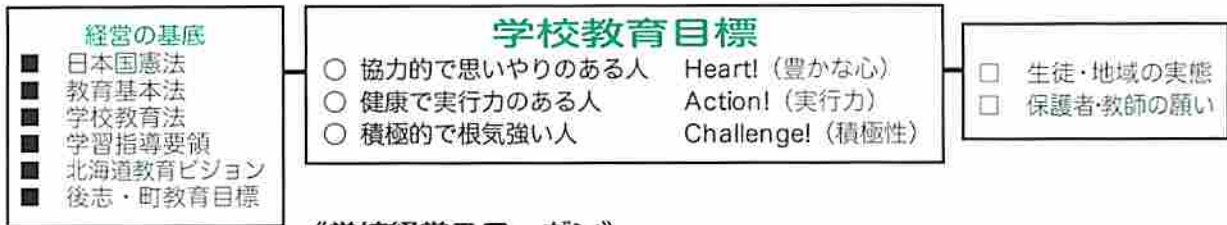
項目	具現化のための方策	達成状況	評価	改善の方策	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
【信頼される学校づくり】 保護者や地域社会とともに、互いに連携・協力して生徒を育てる。	学校便りの充実と配布先拡大、高校 Web ページの充実は図られているか。	4.0	A	学校評価に基づく学校運営の改善。プロジェクト活動等を通し積極的に地域教育力を活用したい。全教員で、地域が本校に対して求めている教育の在り方について研究し、自身の教科指導に生かせるよう努めていく。また、保護者との接し方に工夫が必要な面がある。		
	実習やプロジェクト活動、ボランティア活動等を通しての地域活動との連携が図られているか。	3.8	A			
	学校評価に基づく学校運営の改善、教育活動の向上がなされているか。	3.5	A			
	PTA 活動の活性化に対する支援がなされているか。	3.4	B			
評価者の意見等						

(2) 学校教育計画に基づく全体構造図 (例)

小学校 (例)



中学校（例）



《学校経営スローガン》

後志一の学校を創ろう！



《今年度の重点課題》

- ① 基礎学力の確実な定着と自ら学び自ら考える力の育成
- ② 積極的に工夫された情報発信による開かれた学校づくりの推進
- ③ 学校と家庭とのきめ細かな「報・連・相」による連携の強化

3つの柱

1 分かる授業・楽しい学校

〈意欲的に学ぶ力・確かな学力の育成〉

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> □ 指導方法の工夫改善を通じた基礎的・基本的の学習内容の確実な定着 □ 一人ひとりの生徒のニーズに応じたきめ細かい指導・支援の充実 □ 自主的に学習に取り組む生活習慣、学習習慣の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 補充的学習の推進 ■ 地域の教育資源の活用 ■ 読書習慣の確立 |
|---|---|

〈心を大切にする道徳教育と生徒指導の充実〉

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> □ あらゆる教育活動を通じた道徳教育の推進 □ 職場体験学習の充実を通じた職業観・勤労観の育成 □ ボランティア活動や体験活動を通じた感謝の心や奉仕の精神の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ■ きめ細かい生徒理解の充実 ■ 話し合い活動の充実 ■ 自尊感情の醸成 |
|--|--|

〈たくましい心身の形成と健康で安全な学校づくり〉

- 安全指導の徹底と生活、学習習慣づくりを通じた健康な心身の育成
- 食育指導の充実
- 科学的な知識に基づく健康指導と体力づくりの推進
- 部活動を通じた望ましい人間関係の確立

2 情報発信する学校

- 学校だより、学級通信、HP、ブログ等の充実と積極的発信
- 行事や参観日等の充実
- 改善システム（自己評価・保護者、生徒アンケート）の充実と公表
- 発信の工夫と充実

3 家庭・地域・学校の連携の充実

- 学校と家庭とのきめ細かい「報・連・相」による連携の強化
- 保護者会・家庭訪問等の充実
- PTA活動・学校評議員会の推進
- 地域行事への積極的な参加

PDCA
サイクル

計画

実践

評価

評価の
整理・分析

改善

説明
公表

(3) ニセコプラン参考(例)

小学校(例)

1 分かる授業・楽しい学校

【育む三つの力】

① 確かな学力

- 力を伸ばす学び方の定着
 - ・複式授業の定型化を図る
 - ・学び方を身に付ける
 - ・系統だったノート指導
- 基礎基本の確実な定着
 - ・朝自習の継続
 - ・家庭学習の継続
 - ・放課後、すき間学習での補充学習
- 個に応じた指導の徹底
 - ・レディネステストの実施
 - ・個人カルテの作成と引継
- 授業力の向上
 - ・教師間での授業公開の日常化
 - ・共同研究に基づく研究授業
 - ・児童による授業評価の実施
- 特別支援教育の充実
 - ・研修の充実
 - ・全教職員による児童理解・情報共有

② 豊かな心

- 自尊感情を育む集団作り
 - ・互いのよさを伝え合う活動
- あいさつ運動の推進
 - ・児童会によるあいさつ運動の展開
 - ・全教職員による積極的声かけ
- 道徳教育の充実
 - ・積極的な授業公開
 - ・いじめアンケートの実施
- 読書活動の充実
 - ・読書環境の整備
 - ・「ちいさな本だな」「読み聞かせの会」の実施
 - ・朝読書の実施

③ 健やかな体

- 体力向上のための日常実践
 - ・新体力テストの実施
 - ・集団遊びの励行
 - ・マラソン、クロカンへの取組

2 情報発信する学校

【PDCAサイクルによる学校評価】

① 学校だより・学級だより・HPの充実

- 学校情報の積極的発信
 - ・学校ホームページの定期的更新

- ・内容の創意工夫
- ・教育活動の情報発信

② 自己評価の推進

- 全教職員による自己評価の実施
 - ・年間2回の実施と結果の公表

③ 学校評議員制度の活用

- 学校評議員による学校評価の実施
 - ・授業参観、行事への参加
 - ・評議員会での話題を学校だよりで発信
- 評価結果の経営への反映

④ 保護者アンケートの実施

- 自己評価との比較・検討
 - ・差異を明確にして改善策の検討
 - ・懇談会、学校だより、HP等での結果の公表

3 家庭・地域・学校の連携

【信頼・協働・創造】

① 家庭・地域と連携した基本的生活習慣づくりの推進

- 家庭への積極的な啓発
- 一貫性と継続性のある生徒指導
 - ・情報の共有と積極的生徒指導の展開

② ともにつくる教育活動

- P T Aふれあい活動の実施
 - ・地域の方々との交流会開催
- ゲストティーチャーの積極的な活用
 - ・教科、総合的な学習の時間、道徳等における計画的な授業の実施
 - ・〇〇地区資源保全推進会との連携
- 保護者による学校支援活動
 - ・各種行事、環境整備等での連携

③ 安心・安全な学校づくり

- 学校・家庭・地域の協働による安全マップの作成
 - ・情報の共有と緊密な連絡体制の確立
- 定期的な登下校指導の実施
 - ・通学路の安全点検、危険箇所の確認
 - ・個別の通学指導
- 安全点検日の設定
 - ・確認シートを活用しての安全点検

中学校（例）

【中期的課題】

- 確かな学力の形成
- 心豊かでたくましい子どもの育成
- 地域とともに歩む学校

【年度の重点課題】

- 基礎的な学力定着の徹底を図り、自ら学び考える力を育てる
- 相手を思いやり、積極的に社会に貢献しようとする心を育てる
- 情報発信と生徒が活躍する場の拡大・充実により地域に開かれた学校づくりを推進する

【具体的推進事項】

1 分かる授業・楽しい学校

意欲的に自ら学ぶ力を育てる学習指導を推進するとともに、心を豊かにする道徳教育と実践的な態度を育てる活動の推進と充実に取り組みます。

【学習指導】

- ◇ 新学習指導要領を踏まえた適切な教育課程の編成・実施・評価・改善
- ◇ 基礎的・基本的事項の確実な定着を図る『わかりやすい授業』の展開と、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成
- ◇ 計画的・継続的に学習する態度の育成
- ◇ 感性を磨き、表現力・創造力育成の基盤となる読書習慣の形成

【道徳教育】

- ◇ 自尊感情や他者への思いやりの心を育む指導工夫
- ◇ 『心のノート』の効果的な活用と指導の工夫

【特別活動】

- ◇ 「話し合い活動」の指導の充実
- ◇ 「節度ある行動、思いやり、奉仕の心」などを育むボランティア活動や体験活動の推進

【進路指導】

- ◇ 「生き方教育」として、他領域との連携を図った各学年の指導工夫と全体計画・年間指導計画の整備

【総合的な学習の時間】

- ◇ 学習テーマ「生きる」につながる体験的な活動を重視し、全体計画・年間指導計画に基づいた系統的な学習活動の推進

【部活動】

- ◇ 健やかでたくましい心身の形成と達成感の体得、望ましい人間関係の確立

【生徒指導】

- ◇ 教師と生徒、生徒相互の信頼関係を基本に、生徒一人ひとりが自己実現を図り豊かな集団生活を営む学校環境の確立

【健康安全指導】

- ◇ 健康や安全に対する意識高揚を図る保健教育、安全教育や食育教育の推進

【特別支援教育】

- ◇ コーディネーターを中心に縦横の連携を重視した校内支援体制の確立と推進
- ◇ 個別の教育支援計画、指導計画に基づいた個のニーズに応じた指導

【研修・研究】

- ◇ 新しい研究テーマの構想確立
- ◇ 研究テーマに基づいた積極的な授業公開授業研究の推進

2 家庭・地域・学校の連携

保護者や地域に信頼される学校の推進と充実に取り組みます。

- ◇ 家庭・地域との連携の充実と信頼関係の構築
- ◇ PTA活動や学校評議員会の推進と内容の充実
- ◇ ニセコマラソンなどの地域行事への積極的な参加と協力（生徒も教職員も）

3 情報発信する学校

開かれた学校の推進に取り組みます。

- ◇ 開かれた学各種通信類やHP等による発信の充実と開かれた学校の推進
- ◇ 改善につながる自己評価、保護者・生徒アンケート、学校関係者評価の実施

4 学校運営

学校目標の具現化を目指した創意ある教育活動の推進と充実に取り組みます。

- ◇ 〈Plan-Do-Check-Action〉による自律的な学校改善システムの確立と推進
- ◇ 開かれた学校運営と教職員の協働体制の充実
- ◇ 個人情報管理の徹底やいじめ防止、登下校の安全確保など、日常的な危機管理意識の高揚
- ◇ 教育公務員として服務規律の遵守
- ◇ 町内小学校や高等学校との連携

(4)「教育プラン(学校改善プラン)」推進(例)

現在、各学校等で進めている「教育プラン」は、PDCA サイクルに基づいた授業改善の取組であり、学校改善を目的とする学校評価システムそのものであると言えます。既に実施しているこの取組を見直し、充実させることが自校の学校評価を充実させることにもつながります。

※ 各学校等がそれぞれの実態に合わせて、幼児センター・学校内全体での共通理解のもと、授業改善プラン、全体計画等を立て、評価、改善していくことが大切です。

PDCA サイクル	取 組 (例)	情報発信	
P	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">実態把握</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">課題把握</div> <div style="text-align: center;">↓</div>	<input type="checkbox"/> 学力の把握：全国学力学習状況調査や各種学力調査による児童生徒の学力把握 <input type="checkbox"/> 学習意識・生活実態の把握 ・「ニセコ町児童生徒 生活・学習アンケート」(生活習慣、家庭学習習慣等の把握) ・児童生徒アンケート(学習への意識、満足度等の把握) <input type="checkbox"/> 課題の把握 ・学力(基礎学力、読解力、表現力、活用力等) ・学習意識 ・家庭での生活習慣	情報発信
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">重点目標の設定</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">具体的な取組の設定</div> <div style="text-align: center;">↓</div>	<input type="checkbox"/> 具体的で検証可能な重点目標の設定 <input type="checkbox"/> 目標を達成するための取組(教育プラン)の設定 ・基礎基本の定着のための方策、時間の設定(朝学習、放課後、長期休業中)の活用 ・校内研修の充実 ・指導法・指導形態の工夫(少人数、習熟度別) ・教材の工夫 ・個人カルテの作成、活用 ・補充学習、家庭学習の活用 等	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">保護者への発信</div> ・重点目標 ・具体的取組 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">家庭との連携</div> ・学習習慣の形成 ・基本的生活習慣の形成
D	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">実践</div> <div style="text-align: center;">↓</div>	<実践例> <input type="checkbox"/> 教育プランに沿った学習活動の展開 <input type="checkbox"/> 指導と評価の工夫 <input type="checkbox"/> 研究授業の実施 <input type="checkbox"/> 取組についての情報発信 ※ 実施状況に応じての修正を図る	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">外部アンケート</div> ・児童生徒 ・保護者
C	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">評価</div> <div style="text-align: center;">↓</div>	<input type="checkbox"/> 達成状況の把握(定着度調査、教員アンケート、外部アンケートの満足度等) <input type="checkbox"/> 自己評価：成果、課題の分析、改善策の取りまとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自己評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学校関係者評価</div>
A	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">改善</div> <div style="text-align: center;">↓</div>	<input type="checkbox"/> 評価結果に基づいた次年度へ向けての改善策の検討 <input type="checkbox"/> 新たな授業改善プラン等の策定	・評価結果、改善策の公表

(5)「教育プラン(学校改善プラン)」 参考(例)

各学校等においては、学力向上に向け児童生徒の学力・生活状況の実態や学校評価等を加味し、「いつまでに」「何をするのか」を明確にした「〇〇学校教育プラン」を作成するとともに、全教職員が主体的取組を行うことが大切です。

平成25年度 学力向上教育プラン			ニセコ 町立〇〇〇小学校		学級数	〇〇学級	児童数	〇〇〇名											
現況	実態把握の方法		分析結果				検証時期	修正・改善内容											
		全国学力・学習状況調査 C R T (標準学力調査) 小学生・学習アンケート 保護者・児童アンケート 学校評価	①国語・算数の両科目で全国平均レベルである。理科は全国水準以上である。基礎的・基本的内容は、日頃の学習の成果が十分に現れている。国語・算数両教科の活用に関する課題の中でも特に、根拠を基にその理由を説明するなどの記述内容での落ち込みが見られている。 ②「小学校「生活・学習アンケート」から、朝ごはん、早起きは良好であり、早寝は普通といえる。テレビ視聴・ゲーム時間の長さ、読書時間の少なさで課題を残している。																
到達目標	学力・学習	①国語科では、複合的な資料の読み取りを通し、自分の考えを持つ活動を重視し、理由や根拠を明らかにした「話す・聞く・書く」の育成を目指すポイント以上改善する。②算数科では、「割合」の領域で落ち込みがあるので、「規準量・比較量・割合」の問題場面を適切に行い3ポイント以上の改善を図る。																	
	生活	「生活・学習アンケート」からは概ね良好な結果が出ている。しかし、読書時間は短く、テレビ・ゲームの時間が極度に長く「〇〇しながら」と言う行動が表れているので、集中する姿勢を身に付けさせる。																	
具体的な目標と方策			スケジュール						部活動・次のステップ										
項目	取組の具体	目標値と検証方法	1	2	3	4	5	6		7	8	9	10	11	12	1	2	3	
【定着】	・年間を通じ、計算・漢字ドリルで繰り返し学習を行う。 ・放課後、長期休業中に補充学習を行う。	・授業アンケート「〇〇の勉強が楽しい・よくわかる」を0.2ポイント高める。 ・単元テストや定着ドリル、チャレンジテストで定着の度合いを確認し、80%以上にする。	チャレンジテスト・過去問題の活用																
・基礎基本の定着																			
・習熟度に応じた学習	・習熟度に応じ、質・量に配慮した課題の提供を行う。																		
【学び方】	・自ら学力を育てるため、教科の特性を踏まえ「考えさせる場面」「話し合わせる場面」を意図的に取り入れる。 ・ICTを活用した授業づくり	・校内研修の充実を図るとともに、授業中の児童の様子についての交流を図る。 ・授業アンケート「発表するのが好き」を3.0以上にする。 ・全員がICTを活用し授業公開 ・1か月に一度は活用する。																	
・バランスのとれた授業づくり																			
・ICTを活用した授業づくり	・ICTを活用し、「分かる・できる」授業づくりを行う。																		
【学習状況】	・学年に応じた家庭学習のサイクルを確立する。 ・自学プログラムを保護者へ提示する。 ・授業開始のチャイムの意味を理解し、落ち着いた学習環境を作り出す。	・〇〇〇小「学習の手引き」を活用した学習習慣の確立を目指すし、自学の割合を57%から60%にする。 ・児童アンケート「学校の約束は守っている」の項目の素点3.6にする。																	
・自主的な学習(自学)の推進																			
・学習規律の確立																			
【家庭生活】	本校「生活学習アンケート」から	本校「生活学習アンケート」																	
・家庭における生活改善	・毎日の家庭における読書時間を確保する。 ・毎日のTVやゲームの時間を減少させる。	・読書時間「読んでいない」28%を20%以下にする。 ・「4時間以上」30%を25%以下にする。																	
【学校課題】	・幼小中の連携を生活面で生かし、ギャップがないようにする。 ・インターニセコ校等との交流による国際理解教育の推進	・公開授業、参観日、交流学習等で積極的に交流を行う。 ・授業交流年一回、1～4年でのALTとの交流年一回実施。																	
・学校間連携																			

(6) マークシート処理システムの導入(例)

教職員による評価や外部アンケートなどの集計事務の軽減化のためにスキャナによる自動集計の方法があります。インターネットからダウンロードした「マークシート処理システム」でマークシート式のアンケート用紙を作成し、ADF（自動給紙機能）付きスキャナで読み取ります。手作業での集計作業に比べると、「非常に短時間で集計できる」、「普通紙に印刷できる」、「集計ミスがない」、「グラフ処理し易い」、「評価者の匿名性が担保できる」等のメリットがあります。

＜マークシート処理システムのダウンロード先＞

「学校評価支援システム」または、「学校評価支援ポータル<http://smp.sfc.keio.ac.jp/sess2009/>」で検索します。

「学校評価支援システム」は、文部科学省「平成20年度・学校の第三者評価の評価手法等に関する調査研究（外部アンケート等のICT化に関する調査研究）」の事業委託を受け、慶應義塾大学SFC研究所により、研究・開発されたものです。現在、「学校評価支援システム」をご利用の方は、Java23を使用し、Update24への更新を行わないでください。

★マークのしかた
 悪い よい

今年度の〇〇学校教育活動についてお伺いします

以下のそれぞれの質問で、あてはまるもの一つにマークしてください。

(1) 学年： 1年 2年 3年 4年 5年 6年

(2) クラス： 1組（A組） 2組（B組）

(3) 性別： 男子 女子

以下の各項目について、「そう思うか（適合度）」をお答えください。

(4) 学校運営について

		適合度			
		そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1	学校は各親日の全短懇談や便りを通して教育方針を分かりやすく伝えている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	通知表は各教科の評価項目など、見やすく分かりやすいものになっている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	学校は家庭との連絡や意思疎通を積極的に行っている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	学校では子どもや保護者の相談にのってくれ、適切な対応をしている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	地域性を生かした教育活動が行われている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	学校の環境は安全で安心できるものに整えられている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(5) 教育活動について

		適合度			
		そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1	授業は楽しく分かりやすいように工夫されている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	掃除や給食などの当番活動の指導の様子が伺える。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	子どもたちの挨拶や礼儀への指導の様子が伺える。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	（学校は）子ども子どもたちの正しくない行いに対して毅然とした態度で指導している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	家庭学習（自学）を通して学習意欲を高めている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	学校の環境は安全で安心できるものに整えられている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7	子どもの良さや努力の様子を様々な面で認めている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8	子どもの悩みや心配事に耳を傾け、解決に導いている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9	通信などを通して、子どもたちの様子や学習の様子を分かりやすく伝えている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

1/2

(7)「ニセコ町生活・学習アンケート」参考(例)

ニセコ町では、小学1年生から高等学校3年生までを対象として、生活と学習状況の実態把握を行うために、「小学1・2年生用」「小学3・4年生用」「小学5年生以上用」のアンケート用紙を作成し、学年ごとのアンケート調査を行っています。

内容にほとんど違いはありませんが、「受験」に係わる設問や「携帯電話」は「5年生以上で、「塾」については「中学生」の追加項目として、児童生徒の実態把握に努めることができるようにしています。

※「睡眠時間」の設問はありませんが、就寝時刻と起床時刻の差から算出します。

生活・学習アンケート「小学5年生以上用」(例)

名前() 書かなくてもいいです。	
アンケートにお答えください。(5年生～)	
自分がしていたり、思うところの、ア・イ・ウ・エ・オ・カに○をつけてください。	
2. 3. 8の質問には、()に数字を書いてください。	
1. 朝食は、毎日食べていますか。	ア) 食べている イ) どちらかといえば 食べている ウ) どちらかというと あまり食べていない エ) まったく食べていない
2. 毎日 何時頃寝ますか。	() 時頃
3. 毎日 何時頃起きますか。	() 時頃
4. 学校以外で、一日どのくらい読書をしていますか。	ア) いない イ) 10分未満 ウ) 10分～30分 エ) 30分～1時間 オ) 1時間以上
5. 学校以外【月～金】で、一日どのくらいの時間、勉強していますか。	ア) いない イ) 30分未満 ウ) 30分 エ) 1時間 オ) 2時間 カ) 3時間以上 ～1時間 ～2時間 ～3時間
6. 学校が休みのとき、一日どのくらいの時間、勉強していますか。	ア) いない イ) 30分未満 ウ) 30分 エ) 1時間 オ) 2時間 カ) 3時間以上 ～1時間 ～2時間 ～3時間
7. 家で勉強するとき、何を勉強していますか。(いくつでも)	ア) 主に宿題 イ) 予習 ウ) 復習 エ) 興味をもっているもの オ) 試験に備えて
8. 普段1日あたりどれくらいテレビやビデオ・DVD、テレビゲームを見たり、やったりしていますか。	() 時間くらい
9. 学校は、好きですか。	ア) そう思う イ) どちらかといえばそう思う ウ) あまり思わない エ) 思わない
10. 勉強は、好きですか。	ア) そう思う イ) どちらかといえばそう思う ウ) あまり思わない エ) 思わない
11. 勉強は、大切ですか。	ア) そう思う イ) どちらかといえばそう思う ウ) あまり思わない エ) 思わない
12. わからないことでも、自分の力で答えを見つけられるように勉強したいですか。	ア) そう思う イ) どちらかといえばそう思う ウ) あまり思わない エ) 思わない
13. 勉強は、受験に関係なくても大切ですか。	ア) そう思う イ) どちらかといえばそう思う ウ) あまり思わない エ) 思わない
14. 「携帯電話」を持っていますか。持っていないけど、	ア) 自分専用をもっている イ) 持っていない (i) 必要な時、親から借りる。 ii) 兄弟姉妹で 使っている。
15. 「〇〇学校のよいところ」を紹介してください。(いくつでも)	()
設問外「塾へかよっていますか。(中学生のみ)	ア) 通っていない イ) 通っている ウ) 夏休み・冬休みのみ

参 考 文 献

文 献 名	著 者
学校評価ガイドライン（平成22年改訂）	文部科学省
神戸市学校評価ガイドライン	神戸市教育委員会
共に子どもを育む 学校評価ガイドライン	宮崎県教育委員会

